令和7年第1回砂川市議会定例会
第2予算審査特別委員会

令和7年3月18日（火曜日）第1号

開会宣告

開議宣告

議案第13号 砂川市開業医誘致等条例の制定について

議案第15号 砂川市職員定数条例の一部を改正する条例の制定について

議案第16号 砂川市職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第17号 砂川市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第18号 砂川市職員諸給与条例等の一部を改正する条例の制定について

議案第19号 砂川市手数料条例の一部を改正する条例の制定について

議案第22号 砂川市災害遺児手当支給条例の一部を改正する条例の制定について

議案第25号 砂川市地域交流センターの指定管理者の指定について

議案第26号 砂川市ふるさと活性化プラザの指定管理者の指定について

議案第27号 砂川市まちなか交流施設の指定管理者の指定について

議案第 7号 令和7年度砂川市一般会計予算

議案第 8号 令和7年度砂川市国民健康保険特別会計予算

議案第 9号 令和7年度砂川市介護保険特別会計予算

議案第10号 令和7年度砂川市後期高齢者医療特別会計予算

議案第11号 令和7年度砂川市下水道事業会計予算

議案第12号 令和7年度砂川市病院事業会計予算

散会宣告

○出席委員（12名）

委員長 辻 勲 君

委員 是 枝 貴 裕 君

伊 藤 俊 喜 君

高 田 浩 子 君

水 島 美 喜 子 君

沢 田 広 志 君

副委員長 山 下 克 己 君

委員 石 田 健 太 君

鈴 木 伸 之 君

中 道 博 武 君

小 黒 弘 君

武 田 真 君

（議 長 多 比 良 和 伸）

○欠席委員（0名）

○ 第2予算審査特別委員会出席者 ○

1. 本委員会に説明のため出席を求めた者

砂川市長	飯澤明彦
砂川市教育委員会教育長	高橋豊久
砂川市監査委員	中村一久

2. 砂川市長の委任を受け説明のため出席する者

副市長	井上守
総務部長	板垣喬博
兼会計管理	
総務部審議監	安原雄二
総務課長	岩間賢一郎
市長公室課長	小島武史
政策調整課長	三橋真樹
D X推進課長	渡部秀樹
会計課長	安武学
市民部長	堀田一茂
市民生活課長	伊藤修一
税務課長	齊藤史憲
保健福祉部長	安田貢樹
社会福祉課長	谷地雄樹
子育て支援課長	作田哲也
介護福祉課長	岡康裕
ふれあいセンター所長	佐藤哲朗
子ども通園センター所長	東海林孝
経済部長	野田勉
経済部審議監	
兼開発推進課長	畠山秀樹
商工労働観光課長	奥山雅喜
農政課長	上山哲広
建設部長	斉藤隆史
土木課長	金泉敏博
土木課副審議監	岩崎賢一
土木課副審議監	馬場修二

土木課副審議監	中本和幸
建築住宅課長	中山智宏
病院事務局長 兼附属看護専門学校事務管理者	朝日紀博
病院事務局次長 兼医師診療支援室副審議監 兼附属看護専門学校副審議監	為国泰朗
管理課長	倉島久徳
管理課副審議監	和田忠成
管理課技術長	大内文雄
経営企画課長	堀下直樹
経営企画課副審議監	阿部雅和
医事課長	川端祥子
地域医療連携課長 兼訪問看護ステーション副審議監	大坂衣里
教育研修センター副センター長	森田康晴

3. 砂川市教育委員会教育長の委任を受け説明のため出席する者

教育次長 兼学校給食センター所長	東正人
指導参事	堤雅宏
教育委員会技監	徳永敏宏
学務課長	早川浩司
学校再編課長	玉川晴久
学校再編課副審議監	篠崎強
社会教育課長	谷口昭博
スポーツ振興課長	江末孝之
公民館長 兼図書館長	山形讓

4. 砂川市監査委員の委任を受け説明のため出席する者

監査事務局長	川端幸人
--------	------

5. 砂川市選挙管理委員会委員長の委任を受け説明のため出席する者

選挙管理委員会事務局長	板垣喬博
選挙管理委員会事務局次長	岩間賢一郎

6. 砂川市農業委員会会長の委任を受け説明のため出席する者

農業委員会事務局長	野田勉
農業委員会事務局次長	上山哲広

7. 本委員会の事務に従事する者

事	務	局	長	安	武	浩	美
事	務	局	係	野	荒	邦	広
事	務	局	係	佐	々木	健	児

開会 午前 9時56分

◎開会宣告

○委員長 辻 勲君 おはようございます。ただいまから第2予算審査特別委員会を開きます。

◎開議宣告

○委員長 辻 勲君 直ちに議事に入ります。

○委員長 辻 勲君 本委員会に付託されました議案第13号 砂川市開業医誘致等条例の制定について、議案第15号 砂川市職員定数条例の一部を改正する条例の制定について、議案第16号 砂川市職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第17号 砂川市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第18号 砂川市職員諸給与条例等の一部を改正する条例の制定について、議案第19号 砂川市手数料条例の一部を改正する条例の制定について、議案第22号 砂川市災害遺児手当支給条例の一部を改正する条例の制定について、議案第25号 砂川市地域交流センターの指定管理者の指定について、議案第26号 砂川市ふるさと活性化プラザの指定管理者の指定について、議案第27号 砂川市まちなか交流施設の指定管理者の指定について、議案第7号 令和7年度砂川市一般会計予算、議案第8号 令和7年度砂川市国民健康保険特別会計予算、議案第9号 令和7年度砂川市介護保険特別会計予算、議案第10号 令和7年度砂川市後期高齢者医療特別会計予算、議案第11号 令和7年度砂川市下水道事業会計予算、議案第12号 令和7年度砂川市病院事業会計予算の16件を一括議題とします。

お諮りします。審査の方法としては、まず予算先議議案の審査を行い、次に一般会計を行うこととし、歳出を款、項ごとに、続いて継続費、債務負担行為、地方債及び歳入の審査の順で行い、次に特別会計の歳入歳出、事業会計の収入支出を一括審査する方法で進みたいと思います。このことにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、そのように進めてまいります。

初めに、議案第13号 砂川市開業医誘致等条例の制定についての審査に入ります。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

小黒弘委員。

○小黒 弘委員 総括質疑でも出ていたのですけれども、これを取り扱っていく所管というか部署がちよっと私も心配なんです。これ何でふれあいセンターになったんだろうと、所長に聞いてもあれかも分からないけれども、お伺いします。

○委員長 辻 勲君 ふれあいセンター所長。

○ふれあいセンター所長 佐藤哲朗君 所管としましては、保健衛生ということでふれあいセンターの所管ということになっております。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 これもっと戦略的に本当にやっていかないと、せっかく道内ですばらしい条例とともに誘致策ができたんですけれども、例えばパンフレット等で連絡先となったときに、ふれあいセンターの番号が書かれるんですか。

○委員長 辻 勲君 ふれあいセンター所長。

○ふれあいセンター所長 佐藤哲朗君 ふれあいセンターの電話番号を記載します。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 何か戦略的にちょっと相手方に響かないんじゃないんですか。連絡先の番号があって、ふれあいセンターと書かれるんでしょう。これは本当にちょっと所管を替えたほうがいいんじゃないんですかねと思うんですけれども、副市長、これはどうなんですか、所管の話になるんですけれども、ふれあいセンターでやるということはある程度そちらでは戦略的な意味で考えてのふれあいセンターだと思ってるんですけれども、これはどう考えても見た人がどこなんだろうと、砂川市ふれあいセンターといたらちょっと違和感を感じると私は思うんですけれども、いかがでしょう。副市長。

○委員長 辻 勲君 保健福祉部長。

○保健福祉部長 安田 貢君 所管についてのご質疑、私からご答弁申し上げたいと存じますが、今回本条例の協議を行っていくに当たって全庁的な関係部署が打合せを重ねながらということは昨日のご答弁の中でも申し上げた次第でございます。やはり一番に本市として考えましたのは、これは保健、医療の充実であるという点でございます。そういった点で医師会との日頃の連携、その他、まさに各医療機関と保健行政の連携と、また地域包括ケアシステムを推進していくという観点も含めて、これは保健福祉部の所管が妥当であろうと。また、全道的な先進市の事例を拝見いたしましても、まずほとんどの部署が保健福祉部門で所管されておりますし、全道の中でも極めて先駆的に取り上げた道北の自治体においては当初企画サイドで担当していたと考えられますけれども、途中で保健の所管部署にこの制度についての担当を変えているということからも、この課題についてはまず保健福祉部門で主導的な役割を担い、なおかつ全庁的に推進していかなければという点については昨日もご答弁申し上げた次第でございます。

○委員長 辻 勲君 副市長。

○副市長 井上 守君 所管の関係です。ただいま保健福祉部長が答弁したとおりなんです。予算の立てつけも4款ということでございまして、ふれあいセンターになります。地域医療の関係については、市立病院の関係もありまして、バックアップするのが急性期の市立病院というようなこともありますので、その辺については連携してやっていきます。それで、この条例をつくるに当たって庁内協議もこれまでもしてきましたけれども、総括

質疑でもありましたけれども、全国に向かって発信をしていく中でふれあいセンター、保健福祉部がなかなか外に行くタイミングもどうだということはあると思うんですけども、実は昨年私と経済部長と企業誘致の関係で東京に出張したときにも東京事務所に寄りまして、どういったものが有効かという形でちょっとお話をさせていただきましたら、東京の事務所の担当の方は、やはり砂川市立病院という大きさはご存じでありまして、全自病の関係もありますので、小熊先生の話もあって、いろいろ小熊先生も全国でフォーラムをされているということもありまして、非常に幅が広いということもありまして、宣伝もしていきました。そのときに、全国の人たちがどうやって北海道に移住、転居をしながら開業をしていくかというのは質疑もありましたけれども、そういった部分ではそういうものを宣伝をしながら、私どもも、市長さんもそうですけれども、上京したときにでもいろいろなものを持ってやっていくということについては全庁的にどの部署でもやっていけると思っていますので、担当はまずは保健福祉部で考えているところであります。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 本来であれば砂川市立病院との関係というのは非常に強くなるし、私はどこかでも言ったと思うんですけども、これからは市立病院と市長部局がもっと話合いを密にしていかなければならないと私は思っています、総務の企画がしっかりと担ってもらっても全然おかしくない事業だと思うんです。これがうまくいかなかったら、市立病院もうまくいかないんですよ。市民もやはり苦勞するんですよ。物すごく大事なことであって、それが仮に保健福祉部でもいいです。でも、何でふれあいセンターになるんだろうと。ふれあいセンターは忙しいんです。そればかりではなくて、今いろいろなことが、本当に今議会はふれあいセンターが大はやりになってしまっているじゃないですか。

例えば今の保健師さんたち、増員でもするつもりがあるのならまだ話は分かるんですよ。高齢者のアイドルなんです、彼女たち。その仕事以外に、今度は子育てのことで市役所に誰かが来なければならぬし、所長がずっといてくれればいいけれども、もしかしたら電話を取るわけでしょう、保健師さんが。いろいろな説明をしなければならぬわけです。こんなことを、今ワクチンもあるし、これもあってと、今の業務だけだで大変なのに何でこれをふれあいセンターじゃなければ駄目なのかと本当に思いますよ。保健師さんたちの増員というのは何か考えているんですか。

○委員長 辻 勲君 保健福祉部長。

○保健福祉部長 安田 貢君 今回のこの条例に関して、また一般会計予算の各種事業に関しても含めて、保健師の体制については現在正規職員8名と会計年度任用職員3名、これについては令和7年度も同様の体制で考えてございます。なぜ同じ体制であるかということにつきまして若干ご説明させていただきますが、保健師の業務、市民の皆様の健康の維持、保持、増進、これに関しまして大変重要な役割を担ってございますけれども、ご承知のとおり令和2年度以降、新型コロナウイルスの対応、そのワクチンの集団接種という

ことで多忙を極めてきた経過がございます。令和5年度に大分かなり状況が落ち着き、ただ集団接種もまだ令和5年度は行っておりましたが、そういった中で令和2年度、3年度に比べますとかなりその負担量というものは軽減されてきた中、令和5年度においては国保特定健診の受診率が市で全道1位という成績も残してきた次第でございます。また、令和6年度については、保健予防係が子ども家庭センター準備係も兼務しながら大変準備を重ねて今日に至っておりますが、その業務量が言わばスライドする部分が多いということから、まず令和7年度は現行の体制で臨んでまいりたい。今後新たな事業、さらには想定を超えるような業務量となってきたときには、増員を含めて検討してまいりたいと考えてございます。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 部長、ひどい言い方だよ、今の言い方。保健師さんたち泣くよ。だって、ワクチンの接種前だって忙しくやってきているの。ワクチンのそのときが本当に異常だったの。こんなことやらせるのかなと思うぐらいですよ。それが落ち着いて、まだ正常な業務に、前の正常の業務にも私は戻っていないと思います。本当に地域に小まめに入っているんだから、彼女たち。どうしてそれを、今そのうちもしも状況が変わればと、これを出した瞬間が一番多分大変だと思いますよ。いろいろなところから、そうじゃなかったら困るでしょう。予算をしっかりと組んで、いろいろなところに営業に行ったりするわけでしょう。このときが一番大変なときははずですよ、普通でいけば、そうじゃなかったら困るの、予算まで使って広報するんだから。そのときにまたこれを、本当に分からないな、何でふれあいセンターなのか。自分たちのところでやればいいじゃない。ふれあいセンターではなくて保健福祉部のところでしっかり抱えればいいでしょう。こんなに大事なことを部長を中心にしっかり役所の中できっちりやればいいことじゃないの。どう思いますか。

○委員長 辻 勲君 保健福祉部長。

○保健福祉部長 安田 貢君 条例の制定と素案の作成という部分につきまして事務職の対応の中、ふれあいセンターの所長及び管理係で中心となってこの作業を進めてきたところでございますし、保健福祉部長の職責といたしまして、この条例をご提案するに至るまでの庁内の全体調整をはじめとした部分については私のほうで担わせていただいております。当初からこの施策が極めて重要な施策であるということで関係部署においても部課長による打合せを重ねてきたものでありますし、パンフレット等の電話番号という点では、それはふれあいセンターという掲載になると想定しておりますが、実際の実務を担うという、その交渉が進んでいく中においては保健福祉部長をはじめとした職員によって対応を進めてまいりたいと考えております。ちなみに、今日の朝も報道の方から私のデスクにお問合せをいただいて、対応させていただいておりますし、これはまさに保健福祉部長を筆頭に対応してまいりたいと考えてございます。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 だったら、自分の下できちんとつくったらいいでしょう、誰かきっちり係を決めて。ふれあいセンターはやめてくださいと言っているの。そのままいきますか。

○委員長 辻 勲君 保健福祉部長。

○保健福祉部長 安田 貢君 なぜふれあいセンターかというのは、最初にご答弁でも申し上げましたとおり、やはりこれは保健、医療行政の一番の課題という点の位置づけ、また医師会との密接な関係という点から、ふれあいセンターの所管とさせていただいておりますので、これについては7年度この形でスタートさせていただきたいと存じます。

○委員長 辻 勲君 小黒委員、条例に関する質疑なので、留意しながらお願いしたいと思います。

続いて、次にご発言ありませんか、ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第13号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第15号 砂川市職員定数条例の一部を改正する条例の制定についての審査に入ります。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第15号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第16号 砂川市職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例の制定についての審査に入ります。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第16号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第17号 砂川市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定についての審査に入ります。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第17号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

議案第18号 砂川市職員諸給与条例等の一部を改正する条例の制定についての審査に入ります。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第18号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第19号 砂川市手数料条例の一部を改正する条例の制定についての審査に入ります。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

高田浩子委員。

○高田浩子委員 それでは、質問したいと思います。まず、手数料条例なんですけれども、全体に分量も多くて分かりづらかったなと思うので、少し分かりやすく、大まかにポイントとしてどのようなことなのかについてまず伺います。

○委員長 辻 勲君 建築住宅課長。

○建築住宅課長 中山智宏君 手数料条例の改正理由として、建築基準法及び建築物省エネ法が改正され、事務の煩雑さや業務が拡大することから、手数料の改正を行ったものがあります。建築基準法と建築物省エネ法が改正されたことによる手数料の改正でありますので、本条例に関わる建築基準法の主な改正点について若干ご説明させていただきたいと思えます。今回の関係する部分につきましては、建築基準法第6条の4に基づき、建築確認の対象となる木造2階建て、木造平家建てなどの木造住宅等の小規模建築物、いわゆる4号建築物というものでありますが、都市計画区域内ではこれは確認申請が必要であり、建築士が設計を行う場合には構造関係規定等の審査が省略できる制度でありましたが、令和7年4月1日より、木造2階建てや木造平家建てで延べ面積が200平方メートル超の新2号建築物と木造平家建て、延べ面積200平方メートル以下の新3号建築物、これについては従来の4号建築物の特例と同様の扱いとなりますが、に区分けされまして、新2号建築物には従来建築士が設計を行う場合には省略された構造関係規定等の書類の提出及び審査が必要となります。また、大規模改修や模様替え等で大きな修繕工事についても確認申請が必要となります。また、本条例改正に関わる建築物省エネ法の主な改正点は、原則全ての新築住宅、新築非住宅に省エネ基準適合が義務づけられ、建築確認手続の中で省エネ基準への適合性審査の関係書類の提出が必要となっております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 建築基準法と省エネ基準法というところで非常に関係してくることなのかなと思うわけなんですけれども、2月24日、全国商工新聞というところで、顧客の負担増が不安、そして自分では対応できないので、付き合いのある設計事務所に委託する形、そして顧客や施工業者に一方的にしわ寄せが行くのはどうなのかという不安の声、そして建設事業者からも懸念の声、木造住宅で2階建て以上という基準はほとんどの仕事に当てはまると思う。小規模な仕事から中小規模の事業者の締め出しにつながるのではないかなという不安な声が聞かれています。というところで、先ほども申請の書類の話とかありましたけれども、この手数料に当たってこういった不安の声が聞かれるんですけれども、どのように受け止めるかというか、その条例の手数料の手続のことについて伺います。

○委員長 辻 勲君 建築住宅課長。

○建築住宅課長 中山智宏君 今回の法改正では、建築基準法は安心、安全な建築物、建築物省エネ法は建築物の省エネルギー消費性能を確保するため、建築確認等の時点で綿密な審査をすることで建築主に安心、安全な家、省エネルギーの消費性能に優れた家にとフィードバックされる改正となっております。確かに建築確認等で書類提出の増加だとか、

審査等の厳格化により審査終了期間、実際に7日から35日間に延長されるんですが、今までより延びまして、手数料の増額等により負担が増える面はありますが、建築士による設計により構造計算の不足等がある例が見られることもあり、また省エネ基準適合義務化になり、構造計算が重くなって、特に木造2階建て以上の建物について構造計算をしっかりと国が法改正したものでありますので、金銭などの負担増はありますが、審査の厳格化は建築士にとっても大きなメリットになると考えております。

また、小規模工務店についてですが、従来必要としてこなかった新2号建築物の大規模修繕や模様替え等でも確認申請の提出が必要となりまして、確認申請の提出の経験がない場合、外部へ発注する方法等がありますが、工期延長や金銭的な負担増になると考えますが、最終的には建築主が負担することになりますので、さきに説明しましたとおり、建築主にはデメリットもあるかもしれませんが、長年居住する家の安心、安全等を確保するためには必要なものとしてメリットがありますので、国がこういう形で制度改正したものであります。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 申請等の手続については特に今までと変わったことはないんですか。

○委員長 辻 勲君 建築住宅課長。

○建築住宅課長 中山智宏君 先ほど説明しましたとおり、今回の法改正によって申請する書類等、また確認申請の範囲が広がり、2階建ての木造新築建築物は全ての対象区域で提出が必要になるということになりますので、事務量の増、また事務が煩雑化、高度化するということで、担当する職員の事務負担も増えますので、これについては見合う分だけの手数料を改正したということになります、今回については。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 ということろで、職員の方も新たな仕事、作業が増えるということろで、業者さんや、そういった方々も手数料が増えるということろで適切に対応していただきたいと思います。

以上です。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第19号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第22号 砂川市災害遺児手当支給条例の一部を改正する条例の制定についての審査に入ります。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第22号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第25号 砂川市地域交流センターの指定管理者の指定についての審査に入ります。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第25号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第26号 砂川市ふるさと活性化プラザの指定管理者の指定についての審査に入ります。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第26号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第27号 砂川市まちなか交流施設の指定管理者の指定についての審査に入ります。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第27号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

これより予算に入ります。議案第7号 令和7年度砂川市一般会計予算の歳出から審査に入ります。

106ページ、第1款議会費、第1項議会費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、110ページ、第2款総務費、第1項総務管理費について質疑ありませんか。

武田真委員。

○武田 真委員 126ページの市民生活推進費のうち、消費対策に要する経費、滝川地方消費者センター負担金について伺います。

提案説明によりますと消費者相談業務を委託するという旨の提案説明でしたが、具体的な内容、経緯等についてまず伺いたいと思います。

○委員長 辻 勲君 市民生活課長。

○市民生活課長 伊藤修一君 滝川地方消費センターへの負担金という部分でございます。経過的には平成24年度から砂川消費者協会へ消費生活相談業務を委託してまいりました。そのような中、砂川消費者協会から、昨今相談内容の複雑化、それから高度化への対応がなかなか難しい。それから、会員の高齢化や減少によりまして相談員となられる方の人材確保がなかなか難しいというところで、今後の相談業務の受託が難しいというお話が寄せられたところがございます。そのような中、相談業務をどうしていくかといったときに中空知5市5町のうち7市町で滝川地方消費者センターを窓口として相談業務を実施する広域的な対応が既に行われておりまして、こちらに砂川市も参画させていただくことによって消費者相談業務を実施していこうということで今回予算を計上させていただいたところでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 そうしますと、委託の内容として相談業務を委託ということなんですが、大体これまで年何回ぐらい相談業務があって、それを全面的に委託するということだと思うんですけども、その辺の内容を詳しく伺いたいと思います。

○委員長 辻 勲君 市民生活課長。

○市民生活課長 伊藤修一君 今までの砂川市における相談業務の件数というところでございますが、令和5年度におきましては33件、令和4年度は39件、令和2年度は24件と30件前後というところが年間の相談数かと思っております。相談の内容という部分に触れますと、令和6年の部分でまとめておりますが、多いのがインターネットの利用に関するトラブルであったり、インターネットに係る通販のトラブル、それから電力会社の契約解除に関する事、サプリメント関係の定期購入契約解除などというところが相談内容としては多いというところがございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 今後、そうしますと砂川の市民の方、そうしたトラブルがあった場合、滝川に相談するということになると思うんです。そうしますと、連絡先等の周知等が重要になると思うんですけども、この辺の対応はどうなるのか伺いたいと思います。

○委員長 辻 勲君 市民生活課長。

○市民生活課長 伊藤修一君 こちらの対応窓口の変更という部分での周知につきましては、広報すながわで4月1日号でお知らせをする。それから当然砂川市ホームページなどを利用しまして相談窓口が変わっている旨、市民の方にお伝えしていきたいと考えてございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 それでは質問させていただきます。

総括質疑の中でもあったんですけども、ホームページ、ユーチューブ、その仕事は予算に反映されているのかについて伺います。123ページの地域おこしなのかなと思うんですけども、カメラ等の購入とかというお話もありましたので、どの部分なのかと思ひまして伺います。

○委員長 辻 勲君 政策調整課長。

○政策調整課長 三橋真樹君 昨日の総括質疑の答弁と一部重複いたしますけれども、地域おこし協力隊、前任の方が前職の経験を生かして市内の様子をユーチューブで配信をしていただいたわけなんですけれども、この方は前職でカメラ等の資機材を自分で保有されている方でありました。今後こういった活動を継続するに当たっては動画を撮影するためのカメラを市で準備する必要があると思うというアドバイス、助言をいただきまして、今回予算計上しております。地域おこし協力隊に要する経費の備品購入費11万9,000円、こちらが動画撮影用のカメラ資機材一式分の購入費でございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 ということろで、本会議場でもありましたけれども、自分の持っていたものを使っていたけれども、市にはなかったということで購入ということが分かりました。それで、今購入はまだしていない状態ですよ、その間はユーチューブは発信できないということなんですか。

○委員長 辻 勲君 政策調整課長。

○政策調整課長 三橋真樹君 今現在は、ユーチューブ動画配信は実はしておりません。こちらは地域おこし協力隊に要する経費につけておりますので、今後新たに着任される隊員さんのためにということではございますけれども、隊員が着任するまで動画配信できないのかという話にもなっております。その間は、私も職員でカメラを購入した後に撮影するなどしていきたいと思っております。そういったSNSとかで情報配信をされる経験がある方、そういうスキルを持っている方ということで現在募集をしておりますけれども、最近スマートフォンなどを使って撮影される方も多いと伺っておりますが、精度の高い画像を提供するためにはカメラが要ということでアドバイスを受けて、入れたものです。今後着任する方に対して、このカメラの操作方法ですとか、撮影に同行するですとか、そういった場面が出てくるかと思っておりますので、職員で操作にはしっかりと精通しておく必要があるという部分も含めまして職員で撮影をするということも考えております。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 10目の市民生活推進費の129ページになりますけれども、予約型乗合タクシー運行に要する経費、事業補助金が昨年より増額になっているかと思っておりますけれども、その内容についてお伺いたします。

○委員長 辻 勲君 市民生活課長。

○市民生活課長 伊藤修一君 予約型乗合タクシーの補助金、こちらが増額になっているということにつきましては、利用状況によるところでございます。昨年もそうですが、毎年最近については利用者数が伸びている。そうしますと運行便数も増えて、タクシー会社に補助する。この金額にどうしても運賃が反映してまいりますので、その分を推測しながら予算を計上したということでございます。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 今の説明ですと利用状況が増えているということで、それに対応するというお話でしたけれども、それ以外、サービスを何か新たに考え直して、ちょっとよくするとか、そういう考えではないということでしょうか。

○委員長 辻 勲君 市民生活課長。

○市民生活課長 伊藤修一君 この補助金の増額によってサービスの改善、変更とかを予定しているというところはないということでございます。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 たしか地域交通の会議の中でいろいろ意見を聞きながらというような流

れかとは思いますが、今年も、大体毎年4月とか、春のうちに行っているのかなと思いますが、その意見を聞きながら、もし改善できる点があれば改善しながら運用いただければと思います。

以上です。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 それでは、私は126ページの10目市民生活推進費の中の127ページ、先ほど武田真委員も質疑をされておりました消費対策に要する経費の滝川地方消費者センター負担金についてお伺いさせていただきたいと思います。

詳細については、先ほどお聞きして大体分かってきました。それで、今回の負担金100万6千300円ということで計上されておりますけれども、この金額の根拠的なものを含めてどういう形になっているのか聞かせていただきたいと思います。

○委員長 辻 勲君 市民生活課長。

○市民生活課長 伊藤修一君 こちらの負担金につきましては、共同で実施いたします市町で分担してというところがございます。実は、令和7年度から砂川市に加えまして芦別市もこちらの取組に参画するというところがございます。実質中空知5市5町の中では上砂川町除く市町がこの取組へ参画するというところがございます。こちらにつきましては、かかる経費、こちらは相談業務に当たられる方の人件費、こちらが主なものになりますけれども、それプラス事務費用につきましては、相談件数であったり、それから人口割、それから均等割という形で案分して経費を算出して、その分砂川市の負担が100万6千300円という形になったというところがございます。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 中身的には分かりました。それで、上砂川を除く、中空知5市5町の中で上砂川だけ入らないで、ほぼ滝川地方消費者センターに入っているということで、そうであれば、案分というお話がありましたけれども、それぞれ人口も違いますし、相談業務的なものもあるかと思うんですが、この案分率というのは恐らくあるかと思うんですが、どのような形になっているか教えていただきたいと思います。

○委員長 辻 勲君 市民生活課長。

○市民生活課長 伊藤修一君 まず、均等割につきましては、こちらは単純に市町村の数で割っているというところがございます。あと人口割にもございますが、こちらでも単純に人口の割合によって、人口は令和6年3月末の人口の割合でということがございます。それから、相談件数の割合も、これは総件数に対してそれぞれの市町村にお住まいの方からの相談を受けた件数の割合で案分してということがございます。

以上です。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 今回は令和7年度の予算なので、こういう形だと分かるんですけども、

そうすると市町村の数、そして人口割、あと相談件数によって負担金、委託金というのかな、が変わってくるということなので、そうすると、これ令和7年度なので、これ以上は聞きづらいいですけれども、毎年度人口がやはり変わってくるわけですから、この負担の金額も変わってくる要素があるとまず受け止めておいていいのかどうか。

○委員長 辻 勲君 市民生活課長。

○市民生活課長 伊藤修一君 こちらは、先ほど言った一定時期の人口でということなのでございますので、変わってくることもありますし、相談件数も反映するということなので、この分についても変わってくる要素となると思っております。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 相談件数、令和7年度からは滝川地方消費者センターですけれども、滝川地方消費者センターに直接相談をされる方もいらっしゃるれば、恐らく砂川の消費者協会も残るかと思うんですけれども、こちらを通してこういう相談があるんだけれどもといった場合も相談件数として入ってくるかどうか聞かせていただきたいと思うんですが。

○委員長 辻 勲君 市民生活課長。

○市民生活課長 伊藤修一君 この負担金の件数というところでは、滝川地方消費者センターが直接受けた件数ということになるかと思えます。砂川の消費者協会では諸般の事情で相談をお受けできないということなので、多分ご相談を受けると今滝川で受けているということをご案内されるのかと思えますけれども、この消費者相談の負担金に関しての件数というところは滝川で受けた件数ということによろしいかと思えます。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 分かりました。砂川の消費者協会もありますけれども、それでその下のその他の経費14万6,000円とあるんですけれども、そもそもその他の経費というのはどういうことで使われていくのか、ちょっと確認も含めて聞かせていただきたいと思えます。

○委員長 辻 勲君 市民生活課長。

○市民生活課長 伊藤修一君 消費対策に要する経費、その他経費という部分では、普通旅費4万2,000円、消費者協会の補助金10万4,000円というところになります。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 その他の経費という部分で計上されるとちょっと分からなかったのですが、砂川の消費者協会の補助と受け止めていいのかなと今の答弁で分かりましたけれども、そうすると相談業務は基本的には滝川地方消費者センターにお願いして、砂川の消費者協会として今まで歴史を持ってしっかり活動されてきた部分、相談業務だけ切り離れた部分での形はやっていただけということでもいいのかどうか聞かせていただきたいと思えます。

○委員長 辻 勲君 市民生活課長。

○市民生活課長 伊藤修一君 消費者協会の補助金ということで10万4,000円を今

回新たに計上させていただいておりますが、消費者に対する啓発関係はやはり消費者協会さんのお力も借りながら広く市民に周知していきたいという部分で、その辺の事業を担っていただくというところで補助金を計上させていただいたというところでございます。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 砂川消費者協会の関係で、基本的には啓発業務、市民の皆さんには、今消費者の事件も悪質な部分が多々ありますので、そういったものを含めての啓発活動に重きを置いてやっていくということなので、分かりました。それで、今回令和7年、この中には補助金でのもつていますけれども、過去のには砂川消費者協会というのは相談業務をしていた関係から、たしか何年かに1回、要するに資格を持っていない方たちが北海道消費者協会に行って、申し訳ありません、名称は間違っているかもしれないんですけども、消費生活支援のための業務ができる資格を取りにたしか行かれていたと。そのときは市がお金を負担をして行っていただいて、ある程度の相談業務ができるような資格をとという形があったんですけども、基本的にはそうするとその他の経費の関係ではそういった部分は入ってきていないということでもいいのかどうか聞かせていただきたいと思います。

○委員長 辻 勲君 市民生活課長。

○市民生活課長 伊藤修一君 砂川の消費者協会へは今回補助金で10万4,000円ということでございます。こちらは啓発などもあってというところではございますが、主要な用途については特段指定するものではございません。資格の取得など、砂川の消費者協会の会員の方で取るということがありましたら、直接的なそれに対しての補助ということにはなりませんけれども、こちらの補助なども活用いただいて資格の取得などをしていただくということになるかと思っております。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 分かりました。これは令和7年度なので、あまり言うところとちょっと違うほうに行ってしまうかもしれないので、強いて言うと消費者協会は今までは一生懸命努力されてきた部分があるし、相談業務は基本的に滝川地方消費者センターに移りましたよといっても、啓発活動とともにこういうことがあるんだといったことを適切に伝えるというか、指導というか、お答えというか、支援という形かな、ということができるような部分というのはやはり必要なんだろうと思うので、これは7年度の予算でありますけれども、今後そういった支援が必要なきには市としてもしっかり中身を検討しながらやっていただきたいということで終わります。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、134ページ、第2項徴税费について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、136ページ、戸籍住民基本台帳費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、138ページ、第4項選挙費について質疑ありませんか。

高田浩子委員。

○高田浩子委員 それでは、選挙費について質問します。

141ページになります。オンデマンド型移動期日前投票巡回事業に要する経費ということで、部長から議場で説明はあったんですけども、どのようなことなのか、もう少し詳しく伺います。

○委員長 辻 勲君 総務課長。

○選挙管理委員会事務局次長 岩間賢一郎君 オンデマンド型移動期日前投票所巡回事業ということで、事業の内容についてのご質問かと思えます。この事業につきましては、高齢あるいは障がいなどの理由で自力で最寄りの投票所に行くことが難しい、でも投票はしたいという、投票したくてもできない有権者の方の投票機会を拡充するために計画した事業であります。そういった方の希望に応じて電話あるいはネット予約による事前予約、ここがオンデマンドというところなんですけれども、事前予約を受け付けた上で、期日前投票期間中にワゴン車に投票箱を積んで、投票箱を積んだワゴン車が移動期日前投票所ということになるんですけれども、そのワゴン車が予約を受けた方の自宅前を巡回して、ワゴン車の車内で期日前投票をしていただくと、そういった事業でございます。今回の新年度予算におきましては、その事業実施に必要な経費ということで、投票管理者、投票立会人といった報酬、そして車両の借り上げ料、その他備品等の購入などの経費を計上しているところでございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 この件に関しましては、委員会等で何度か要望もしたことでございます。そういった点で、本当に一人でも多くの方に投票していただきたい。本当に評価できる事柄だと思います。そして、本当に一人でも多くの方に政治に参加していただいて、一人でも多くの方の声で政治を変えていっていただきたいという思いがありますので、自宅のところまで行って投票できるということは、投票所の場所が遠いとか、入り口に段差があるとか、いろいろな声が聞こえておりましたので、その声を聞いていただけたのかなと思います。それで、これはいろんな方に知っていただかないと、知らないではなかなか成果につながらないのではないかと思うわけなんですけれども、まず周知についてはどのように考えていますか。

○委員長 辻 勲君 総務課長。

○選挙管理委員会事務局次長 岩間賢一郎君 周知につきましては、選挙が近づいてきた段階で広報すながわ、そしてホームページ等で周知を図ってまいりたいと考えております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 広報すながわ、ホームページを見ていない方もいらっしゃいます。そう

いったところで、町内会の代表の方の集まりのときにありますよという宣伝をしていただいたら、町内会ごとに会長さんはどこのおうちの方はちょっと投票が難しそうだなとか、そういった部分で分かたりもしますので、そういったこととか、あとは敬老会とか、そういう集まりのときにちょっと説明していただいて、今度からこういう形で電話していただいたら行けるんですという話をロコミでも、とにかく多くの方に知っていただく必要があると思いますが、その点についてはいかがですか。

○委員長 辻 勲君 総務課長。

○選挙管理委員会事務局次長 岩間賢一郎君 今委員さんおっしゃいましたとおり、より広く市民の方に知っていただくということは必要だと考えておりますので、広報、ホームページはもちろんですけれども、広く知っていただく方法、こちらは検討しながら事業を実施してまいりたいと考えております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 ということろで、いろんな方法を考えて、選挙が始まったら物すごく速いスピードでいろんなことが進んでいきますので、その中で行うという点においては事前にたくさん準備をすることが必要かと思っておりますので、今後も一人でも多くの方に選挙に行ってください、投票していただく仕組みをつくっていただきたいと思います。

以上です。

○委員長 辻 勲君 質疑は休憩後に行います。

10分間休憩します。

休憩 午前10時54分

再開 午前11時00分

○委員長 辻 勲君 休憩中の委員会を再開します。

武田真委員。

○武田 真委員 私も同じく140ページ、参議院選挙費のうち、オンデマンド型移動期日前投票所の関係について伺いますけれども、さきの質疑で大体内容は分かったんですけども、やや細かい部分を確認したいなと思うんですが、まずこの財源です。どのような財源を使うのかをまず確認いたします。

○委員長 辻 勲君 総務課長。

○選挙管理委員会事務局次長 岩間賢一郎君 こちらの事業の財源ですけれども、今回は参議院議員選挙に関わる経費ですので、通常選挙執行に係る経費と同様に国で認める経費となっております。ただ、備品購入費につきましては、これはこの選挙に限らずなんですけれども、全額来るものではないという部分が一部ございますので、予算書にあるとおり一部一般財源はありますけれども、ほぼ多くは国で認められる経費となっております。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 さきの質疑で障がいのある方が予約ということなんです。この辺の判別

基準です。手帳を持っている方、何か証明するものを出すということになるのかどうか、この辺の判断基準といたしますか、この辺はどう実務として運営していくのか伺いたいと思います。

○委員長 辻 勲君 総務課長。

○選挙管理委員会事務局次長 岩間賢一郎君 高齢者、障がい者の方の投票手段ということでいきますと、もともとある制度として郵便投票という制度がございます。こちらにつきましては、障がいの等級が1級から3級まで障がいの内容が限定されますけれども、あと要介護5の方ということで、かなり限定された制度になっております。今回この事業を計画したのは、そういったところに該当しない、はざまと言ったらあれですけども、そこには当てはまらないけれども、投票したくてもできないという方を対象としたいと考えておまして、今回この事業の対象者として私どもで考えているのは、全て申し上げますけれども、まず砂川市の選挙人名簿に登録されている方で市内に居住をしている方というのがまず第1になります。そして、病院、介護施設等に入所されていない方、入所されている方に関しましては不在者投票の制度がございますので、そちらをご利用いただけるかなというところがございます。そして、自力で公共交通機関の利用が難しい方、家族等の支援が得られず、投票所までの移動が難しい方、そして自宅前までは車は行きますけれども、自宅の中まではお迎えには行けませんので、自宅から自宅前に駐車したワゴン車まで、そこまでは自力で来ていただける方ということで考えております。今細々申し上げましたけれども、周知の際はもう少し簡潔にというか、分かりやすい表現でお伝えはしたいと思っておりますけれども、そして手帳の等級について質疑でしたけれども、特に障害者手帳の等級ですとか、介護度ですとか、そういったものに関しては条件を設ける予定はございません。自己申告で、先ほど申し上げた条件に自らが該当すると、投票がなかなか難しいんだということで申出のあった方に関しては特に何かを確かめるということはなく対象にさせていただきます。投票に行くことが難しいんだという、投票所への行きづらさを抱えている方に関しては全て対象にしていきたいと、より使いやすい制度にしていきたいという思いでそういったことで予定をしております。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 個人のご自宅ということなんですが、例えば隣近所の方がということではないんですね、あくまでも個人個人、例えば町内で3人ぐらいいるとすると、その方々1軒1軒回っていただけるという解釈でよろしいでしょうか。

○委員長 辻 勲君 総務課長。

○選挙管理委員会事務局次長 岩間賢一郎君 申込みのあった方のご自宅前1軒1軒ということで予定をしております。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 今回のこの取組、砂川では初の取組ということで、いろいろトラブル、

課題等出てくると思うんですが、実行してみても運用結果を見ながら、これは今後の国政選挙あるいは地方選挙に役立てていくというような、そういうもくろみもあって今回始めたということで理解してよろしいでしょうか。

○委員長 辻 勲君 総務課長。

○選挙管理委員会事務局次長 岩間賢一郎君 今回参議院議員選挙、なぜこのタイミングでやってみようかと考えたところは、どうしても衆議院議員選挙でいきますと急な解散、急な選挙ということでなかなか準備期間を取るのが難しい。また、統一地方選挙は選挙が幾つもございますので、なかなか事務的に煩雑な時期であるというところで、まず参議院議員選挙のこの機会を捉えてトライをしてみて、一度やったらなかなかやめるということにはならないかと思えますけれども、参議院選挙でまず試してみて、ただ先ほど委員さんおっしゃられたとおり実例というのがあまりなくて、全国的に見ても道東の士幌町、そしてその近くにある大樹町、この2町が先行してこういった自宅前まで行くワゴン車の投票というのを実施していると。そちらも十分に参考にさせていただきながら計画は立てているんですけども、市でいきますと全国でもまだやっているところがないということで、全国の市でも初の取組ということになろうかと思えますので、法律の枠の中で事業を実施していかなければ駄目ですので、なかなかうまくいかない点等々も出てくるかと思えますけれども、そういったところは課題を一度やってみていく中で明らかにしていきながら、次にまたつなげていきたいと、そういったもくろみは当然ございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 非常にすばらしい取組ですので、ぜひとも今後も継続していけるように取り組んでいただきたいということで、終わります。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、142ページ、第5項統計調査費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、144ページ、第6項監査委員費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、146ページ、第3款民生費、第1項社会福祉費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、158ページ、第2項児童福祉費について質疑ありませんか。

高田浩子委員。

○高田浩子委員 それでは、質問したいと思います。まず、165ページになります。中央地区学童保育所開設準備に要する経費ということで計上されておりますけれども、具体的にどのような準備内容となるのか伺います。

○委員長 辻 勲君 子育て支援課長。

○子育て支援課長 作田哲也君 中央地区学童保育所開設準備に要する経費なんですけれども、令和8年度の義務教育学校開校に伴いまして義務教育学校内に学童保育所を設置させていただくということで準備を進めているところでございます。その準備に伴いまして、実際に令和8年4月1日からは学童保育所開設ということになりますので、事前に既存の学童保育所から物品等をできる範囲で移動させるですとか、あとは新規に備品を購入するに当たっての経費ということで計上させていただいております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 その中で、備品購入費というところで金額的にもちょっと大きいかなと思うんですけども、詳細について伺います。

○委員長 辻 勲君 子育て支援課長。

○子育て支援課長 作田哲也君 備品購入費の内訳なんですけれども、主な金額の大きなものとしたしましては、学童保育所の児童、ふだん勉強するですとか、おやつを食べるですとか、そういった部分で座卓、テーブルです。座卓を使って対応しているんですけども、その座卓が既存の学童保育所はかなり老朽化で傷みが激しいものを今現在使用しているものですから、その部分については部分的に台数的には40台というところなんですけれども、その座卓を更新するほか、あとは事務用のノートパソコン、専任指導員4人という形で配置しますので、ノートパソコンの購入費ですとか、事務机、それから椅子、それから冷凍庫ですとか洗濯機といったような備品も購入することを予定しております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 分かりました。

続いて167ページ、子ども家庭支援センター事業に要する経費というところで子ども家庭支援員報酬というところで計上されております。この方については、有資格者なんでしょうか。

○委員長 辻 勲君 子育て支援課長。

○子育て支援課長 作田哲也君 子ども家庭支援員につきましては、子供や家庭に関する悩みや問題を抱える相談者に対応するというので、教員資格もしくは保育士の資格ということで募集をかけさせていただいております。一応保育士の資格を持った方が4月以降勤務されるということで予定はしているところでございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 分かりました。

続いて、同じく167ページ、すこやか子育て応援事業に要する経費というところで、今回拡充されたということで提案説明があったんですけども、詳しく伺いたいと思います。

○委員長 辻 勲君 子育て支援課長。

○子育て支援課長 作田哲也君 すこやか応援クーポン券の関係でございましてけれども、

拡充の部分としましてはまずは金額の拡充ということになります。これまで一月4,000円分の12か月、4万8,000円分のすこやかクーポンをお渡ししていたところなんですけれども、保護者の方からのご意見等も踏まえ、もう少しおむつの金額も上がっているというようなご意見も踏まえながら検討させていただきまして、一月5,000円分の12か月で6万円分、券自体は1,000円の券ということになるんですけれども、6万円分のすこやかクーポンということで予定をさせていただいております。また、使える期限につきましても、これまでは2歳まででございましたが、昔でいいますとおむつはなるべく早く取るというような風潮だったかと思っておりますけれども、昨今少しゆっくりとおむつを取っていきましょうというような風潮が主流となっていることから、そういったご意見も踏まえまして、3歳までに利用する期間を延ばす予定でございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 この点に関しましても、やはり市内の方の声を聞いて、その拡充について特に年齢、先ほどもおっしゃったように2歳でおむつが取れている子が少ないというところで年齢の拡充も今まで求めていたところでもあります。そういったところで、そういった保護者の方々の声をよく聞いて拡充していただけたこと、これは本当に保護者の方々から、すごくすばらしいというところでとても助かっているという声を聞いております。そんなところでさらに拡充というところで、すごくよいことだと思います。ということで、今後も住みよいまちづくり、子育てしやすいまちづくりに取り組んでいていただきたいと思っております。

以上です。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、170ページ、第3項生活保護費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、172ページ、第4項災害救助費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、174ページ、第4款衛生費、第1項保健衛生費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、184ページ、第2項清掃費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、188ページ、第5款労働費、第1項労働諸費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、190ページ、第6款農林費、第1項農業費について質疑ありませんか。

武田真委員。

○武田 真委員 197ページ、新規事業、地籍調査に要する経費について詳細を伺いま

す。

○委員長 辻 勲君 経済部長。

○経済部長 野田 勉君 これは、私からご説明申し上げます。

まず、地籍調査なんですけど、初めに地籍調査の言葉についてご説明申し上げます。土地の戸籍ということで、登記所に今備えられている図面なんですけど、これは半分ほど明治時代の地租改正時に設けられた公図を基にしているため、現状とかなり異なっているということで、国で地籍調査をずっと進めてきているものでございます。本市におきましては、現在農業基盤整備を進めようとしているんですけど、その中で河川ですとか、道路ですとか、国の用地ですとか、様々なものが見え隠れしながら土地が混在しておりますから、それを明確にしようという考えで今スタートしようとしているものでございます。

内容といたしましては、国では令和2年から令和11年までの計画がありまして、北海道も同じ時期に同じ期間で計画を策定しておりまして、その中のっていないなければ地籍調査を行えないんですけど、本市においては地籍調査やるということで手を挙げておりませんでしたので、現在やる状況にはございませんでした。そこで、今回農地の基盤整備を進めるに当たりまして事前に調査をして、その計画にのせてもらおうということで今準備をすることで今回の予算を計上したものであります。中身といたしましては、打合せを行う旅費で12万円、それから書籍等を買うために消耗品を購入するための経費が2万9,000円、それから管内図とか印刷が必要なので、印本費で2万4,000円、それと郵便料で2万2,000円、それと令和8年度から実施したいということで考えてございますので、それを積算するためのシステムが必要となります。その積算システムを導入するために8万円を計上するものでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 地籍調査については私も以前一般質問した記憶があるんですけども、国土調査法に基づく地籍調査ということで、まずその範囲です。どの範囲をまずやられるのかということと期間です。何年間でめどをつけるのかということと、推進体制はかなり大変ではないかなと想像するんですけども、体制です。この3点伺いたいと思います。

○委員長 辻 勲君 経済部長。

○経済部長 野田 勉君 これも私から。まず、今年度は準備の段階なので何とも言えないんですけども、国の予算に応じて道が配分して進めますので、実はどれぐらいできるか、どれぐらい終わるのかというのは実は明確でなく、取りあえず予算では農地だと場所によって縮尺だとか、場所に応じて予算の範囲内でできる面積が変わってきますので、何とも言えないんですけども、大体農地で200ヘクタールぐらいが1回にできる面積と聞いております。8年度から11年度まで4年間あるんですけど、これがワンクールといえますか、1区域しかできませんので、恐らく200ヘクタールぐらいを1回やろうと考えているところでございます。まだ場所とかは検討中でございますけれども、基盤整備を

進めるに当たっての前提となっておりますので、これから基盤整備をやろうとしているところ、必要な場所を順番を考えながら計画していきたいと考えているのでございます。

〔「体制」との声あり〕

失礼しました。体制につきましては、現在農政課で所管しておりますので、準備につきましては資料を集めるということでございますので、今の体制、農政課で進めていきたいと考えているものでございます。なお、実際地籍調査を進めるに当たりましては、また改めてどうなるかは今後検討ということになるかと思えます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 全市的に行うというより、農地を限定して農地分の地籍調査をやるという方向性なんでしょうか。何かその辺がちょっとイメージがつかめないんですけども、よくあるパターンは全市地区まとめてやっていくということなんですけれども、農地だけを固めるということなんでしょうか。その確認です。

○委員長 辻 勲君 経済部長。

○経済部長 野田 勉君 計画自体は砂川市全体の計画となりますので、恐らく40年とか、そういう長さのスパンで地域を割って取りあえず計画を立てる形になるんですが、進め方といたしましては、今の考え方はご説明申し上げましたとおり農業の基盤整備をやることを中心に進めたいと思っておりますので、まず今回の計画期間中は農業部分を1か所、それから次は随時農業部分から固めていきたいと。考え方としては、取りあえず計画は全市をやることで考えていくということになります。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 そうしますと、何か推進体制が途中で切り替わるということなんですかね。今は農地、農業、経済部門ですけれども、土木と移り変わっていくというイメージなんですか。あくまでも最初から最後まで農政でこの砂川市における地籍調査を進めるという考えなのか、ここの辺の考え方を伺いたいと思えます。

○委員長 辻 勲君 経済部長。

○経済部長 野田 勉君 取りあえず農地、その後山、林地です。それだけでもかなりの年数、何十年もかかるかと思えますので、その後町場に順番にいった場合につきましては今の時点では農政から例えば土木にいくとか、企画にいくということはお答えできませんので、今の時点では農業部門が中心となって動きますので、また基盤整備等も含めて考えていくこととなりますので、農政課で担当していくということになります。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 そうしますと、他の自治体の事例を見てもゴールがかなり遠いのかなと私は見受けられる。取りあえず11年までは計画ということですけども、かなり先を見据えた形で地籍調査に本気で取り組むということで理解してよろしいでしょうか。

○委員長 辻 勲君 経済部長。

○経済部長 野田 勉君 この計画につきましては、10年ごとで国、道、そして市町村の計画を切りながら進めていかなければいけないんですが、その計画自体は全市的な計画をつくって、10年ごとに切って実施していくというような流れになっておりますので、基本的な考え方といたしましては、今お話をしたとおり全市的な計画でまず進めていくと、農地、林地、次の段階でどこへ行くかというような形で進めていくということでご理解いただければと思っております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 それでは、195ページ、新規就農育成支援事業に要する経費というところで、こちらは砂川で地域おこし協力隊というところで新規就農される方が年に1人ないというところが本会議場でも分かったわけなんですけれども、こういった点ですごく心配されている方等、農業が発展してほしいと思っている方がたくさん市内にいらっしゃるわけなんですけれども、備品購入費の内訳について伺います。

○委員長 辻 勲君 農政課長。

○農政課長 上山哲広君 新規就農育成支援事業に要する経費のうちの備品購入費であります。こちらは北海道農業公社と北海道が主催する北海道新規就農フェアという農業に関心がある、または新規就農を考えているという一般の来場者に対し、各まちの農業や新規就農制度について知ってもらうイベントが札幌市で開催されておまして、年2回砂川市も参加をしているところであります。そのイベントで専用のスペース、ブースを設けて対応しておりますが、砂川市の農業や砂川市の農産物をPRするようなデザインをした椅子カバーや幕、テーブルクロスなどを作成するための経費として18万4,000円を計上しているところであります。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 というところで、フェア、イベントのときのデザインの幕とか椅子カバーということなんですけれども、これは今までも使っていたが、新しく新調ということなんでしょうか、それとも新たに作るということなんでしょうか。

○委員長 辻 勲君 農政課長。

○農政課長 上山哲広君 今まではテーブルクロス等は借り物でしたので、今回は砂川市の農政課用として農業に特化したデザインをしたテーブルクロスや幕、あとは椅子カバーなどを新規で作成しようとするものであります。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 それで、今話を伺いますとデザインということですが、デザインはどこかをお願いしたんでしょうか、その部分はどこに計上されているんでしょうか。

○委員長 辻 勲君 農政課長。

○農政課長 上山哲広君 デザインといたしましては、市内の印刷業者さんにこれから依頼をする予定となっております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 ということろで、市内の業者にこれから依頼ということなので、計上はされていないということよ良かったんでしょか。

○委員長 辻 勲君 農政課長。

○農政課長 上山哲広君 備品購入費の中にはデザイン料も含まれておりますので、今後予算がもし通りましたら、市内業者さんと打合せをいたしまして依頼をする予定となっております。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、198ページ、第2項林業費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、200ページ、第7款商工費、第1項商工費について質疑ありませんか。

高田浩子委員。

○高田浩子委員 それでは、商工費について質問したいと思います。201ページのところで中小企業等振興補助金についてなんですけれども、提案説明等にもあったんですけれども、詳細について伺います。

○委員長 辻 勲君 商工労働観光課長。

○商工労働観光課長 奥山雅喜君 中小企業等振興補助金の詳細についてということでございます。こちらは中小企業等振興条例に基づいた補助でありまして、基本昨年の実績等を踏まえて提案させていただいております。詳細につきましては、まず空き店舗で開店する事業者への家賃支援、そちらは2件ほど予定しております。また商店街が実施するイベントへの支援ということで1件、人材育成のため中小企業大学の研修受講料への支援ということで10件、また従業員に資格を取得させる事業者への支援ということで11件、市外から転入する従業員の家賃を助成する事業者への支援ということで20件、事業承継に係る事業を行う事業者に対する支援ということで4件について合計574万円とさせていただいているところでございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 これもこういった支援を活用して多くの方に使ってほしいと思うわけなんですけれども、基本的に周知はどのようにいつもされているんですか。

○委員長 辻 勲君 商工労働観光課長。

○商工労働観光課長 奥山雅喜君 こちらの補助金の周知方法についてのご質問でございます。まず、もちろん市のホームページ、市のライン等で周知はしていくんですけれども、そちらを基本に、あと会議所、そして市内4行の金融機関にこちらで作成しているチラシ等を配布させていただきまして、職員の方が事業者訪問をされるときに事業者にも周知をしていただくという取組を昨年も行っております。また、市内の各種団体、例えば勤労者共

済会ですとか当課所管の技能協会ですとか、そのような各種企業さんが所属されている団体の総会ですとか会合ですとかというのが今後行われますので、そちらにお邪魔しまして若干お時間をいただいてPRさせていただいたり、あと本年度は40か所ほど企業訪問させていただいておりますけれども、そちらの企業訪問で企業さんに応じて市で行っている支援についてはそれぞれPRさせていただいているところでございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 分かりました。

続いて、207ページ、駅前地区整備事業の中で遊具の購入ということでお話があったかと思うんですけども、その点についてはどのようなもの、遊具という、提案説明の中にあつたかなとは思うんですけども、どのようなものを想定していますか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 備品購入費の中になりますけれども、遊具の購入ということで、これについては屋外で遊べる遊具と、あとは施設内のフリースペースのところキッズスペースがございますので、そちらに設置するマグネット遊具ですとか、ちょっとした小さい幼児等が遊べるような遊具を設置する予定としております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 屋外の遊具についてなんですけれども、対象年齢についてはどのようなものを購入する予定になっていますか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 屋外に購入する遊具につきましては、ジャングルジムではないんですけども、そのようないろいろな形を組み合わせる遊具でありまして、それについては対象年齢的には小学生から小さいお子さん、3歳、4歳ぐらいのお子さんまで使えるような遊具になっております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 分かりました。それで、屋外分煙施設についてなんですけれども、やはりその場所に煙が非常に集まるのではないかと、話の中ではつい立てというところで片づける方への健康被害や、裏にアパートや2階建ての住宅等もありますけれども、そういったところで窓を開けづらくなるのではないかとというような不安があるわけなんですけれども、どうもその点についてはどのように考えてますか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 分煙施設につきましては、屋根のつかないパーティション型を予定しているところでございますけれども、この屋根のつかないパーティション型につきましては煙が真上、一応壁の下に吸気用の隙間を設けまして、上に空気が流れるような形になりますので、上の高い位置に煙が流れるような形になっておりますので、そこで高い位置で煙が拡散されますので、それほど密閉型に比べるとそんなに通行人等への影響

はないというところがございますので、それで高い位置で拡散されることによってそんなに広い範囲には拡散しないと考えているところがございますので、その辺も含めまして、なるべく住宅ですとかアパートに近づかないような、なるべく離れたような場所に設置することとして今考えているところがございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 パーティションとかになると冬にはどのような形になりますか、一回壊すとか、撤去するとか。そのまま設置したままにできるものなんでしょうか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 冬につきましても、屋根がありませんので雪は積もるような形になりますけれども、そこは管理する方が除雪を行いまして使用できるような形で運用したいと考えております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 そういったところで、イベント等のときとか、やはりそういったところは外にあると、夜のお店とかでも外に灰皿が置いてあったりするんですけども、結局日中もその場所で吸う方もいて、あと4人ぐらいということでおっしゃっていましたが、物すごくたくさんの方がそこで吸われて、そういったところで体や髪の毛についてまみ出ていくということですよ。それと、子供たちがいた場合、保護者の方がそういった施設があることによって、子供にちょっとここで待っていてねと言って吸いに行かれる方、そういった場合に駐車場というところで、ここに座っていてねと言って行かれた場合に、例えば駐車場で子供たちが何か物を拾う、そしてお絵描きをしてみる等じゃがんだときに車から死角になってしまうんです。そういったところで子供たちの危険という点ではそういった点も非常に心配でありますし、そういったところで我慢できるのに我慢せずに喫煙する場所をわざわざそんな危険な場所、子供たちにとっても危ない可能性がある駐車場というところに造るという点で本当に市が造っているのかなと私的には思うわけなんですけれども、そういった危険についてはどのように考えてますか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 私どもといたしましては、お子さんたちについては施設前の広場で遊んでいただくということを考えておまして、駐車場で遊ぶといったことは想定しておりませんので、その辺についてはできるだけお子さんの利用がないようなところということで駐車場に設定をさせていただいたところがありますので、その辺についてはご理解をいただきたいと思っております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 駐車場にいらなくても、遊具のところここで遊んでねと言って、たばこを吸いに行かれる方がいらっしゃるんですよ。そしたら、そこで子供たちが保護者のいないところで遊んでいて危ないことになったり、そういう危険性もあるんです。だから、

その分煙施設を造ることによって保護者が離れるという危険性も十分にあるんです。先ほども伝えているように、片づける方も物すごい量、その場所に吸わない方が行って片づけるということになると健康被害等も本当に考えられるので、なぜそれをそういったことになるのに市が率先してやるのかなという、不安でたまらないというところで私の質問を終わらせていただきます。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 まず、201ページになりますけれども、まちなか集客施設の運営管理に要する経費について詳細をお伺いいたします。

○委員長 辻 勲君 商工労働観光課長。

○商工労働観光課長 奥山雅喜君 まちなか集客施設の運営管理に要する経費ですが、これまでSUBACOですが、観光協会の隣のスペースに入っておりましたけれども、すないうるがオープンするに当たりましてすないうるに移るということで、すないうるにおける経費ということで計上させていただいております。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 それでは、これは、SUBACOというか、協力隊員がいるスペースみたいな部分を1年間この経費で光熱水費や建物借り上げ料を賄うというような考えなんでしょうか。

○委員長 辻 勲君 商工労働観光課長。

○商工労働観光課長 奥山雅喜君 光熱水費、建物借り上げ料、またその他の経費として燃料費、通信運搬費、手数料ということで計上させていただいておりますので、こちらについて4月分については今の観光協会と一緒に借りているところの家賃も入ってきますし、ただすないうるにつきましては市の施設ということで、SUBACOについては家賃は5月以降かからないこととなりますので、そちらは家賃がかかってこないという減があったり、ただほかの面については1年分、予算については計上させていただいているところです。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 光熱水費は1年分ということでよろしいのでしょうかね。

○委員長 辻 勲君 商工労働観光課長。

○商工労働観光課長 奥山雅喜君 観光協会と1年分を折半する予定としています。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 それで、次の地域おこし協力隊に要する経費、203ページになりますけれども、こちらでは建物等借り上げ料ということで協力隊員に要する経費に計上されているんですけれども、建物等は今度すないうるの部分だと思っておりますけれども、こちらで経費を見て、光熱水費はこちらの前のページの部分で経費を見ているということでもよろしいのでしょうか。

○委員長 辻 勲君 商工労働観光課長。

○商工労働観光課長 奥山雅喜君 地域おこし協力隊に要する経費の建物等借り上げ料につきましては、こちらは地域おこし協力隊員の住宅借り上げの経費になっておりますので、そちらの分として計上しております。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 ちょっと行ったり来たりになるのかもしれないですけども、前の201ページになるんですけども、その他の経費という部分はどのようなものを計上されているのでしょうか。

○委員長 辻 勲君 商工労働観光課長。

○商工労働観光課長 奥山雅喜君 まちなか集客施設の運営管理に要する経費のその他の経費の詳細についてということであろうかと思えますけれども、燃料費が8,000円、通信運搬費が11万7,000円、手数料が4万6,000円とさせていただいているところです。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 すみません、ちょっと行ったり来たりというか、併せての質問になるんですけども、まちなか集客施設において事業等を行う可能性も当然あると思うんですけども、その予算というのはどこかに計上されるような形になっているのでしょうか。次のページの地域おこし協力隊に要する経費、地域おこし協力隊員がいろいろ事業を企画したりする部分はあると思うんですけども、もしそうだとするとこの予算の中では消耗品、原材料費ぐらいなのか、そういう事業に使えるお金というのはそういうような感じなのかと思うんですけども、何か事業に関して想定している予算というのはこの中であるのでしょうか。

○委員長 辻 勲君 商工労働観光課長。

○商工労働観光課長 奥山雅喜君 協力隊の事業についてのご質問でございます。協力隊の事業につきましては、地域おこし協力隊に要する経費で計上させていただいております。具体的には消耗品費、また原材料費、その他の経費の中の印刷製本費、通信運搬費などがございます。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 指定管理の理由の中に市と連携、連動した事業を行うことが重要というような文言もあったものですから、何か市も連携、連動して事業を行うのかなと思っていたんですが、今の説明、この予算を見るとそういうことに使えるような予算というのは地域おこし協力隊に要する経費だけかなと見られるんですけども、そういうことでよろしいのでしょうか。市が直接何か事業を行うとかという予定はない。協力隊員も市の職員の扱いですから、そういうことでこの予算の範囲でやるということよろしいのでしょうか。

○委員長 辻 勲君 商工労働観光課長。

○商工労働観光課長 奥山雅喜君 地域おこし協力隊に要する経費においては、協力隊が

すないも含めた事業を展開していくという経費になっております。こちらの地域おこし協力隊に要する経費ですとかまちなか集客施設に要する経費の中では、市が主催するすないでの事業費というのは計上されておられません。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 次、205ページになりますけれども、観光協会の補助金で事業費補助金、昨年比べて42万円増額になっているかと思うんですけれども、その理由についてお尋ねいたします。

○委員長 辻 勲君 商工労働観光課長。

○商工労働観光課長 奥山雅喜君 観光協会補助金でございますけれども、市内で行われている13のイベント、またすないもオープンされるということもありますので、まちなかにぎわいにつながる初めて行われるイベントに対する支援、また今後継続的に実施していこうとする新たなイベントに対する助成についてはそれぞれ観光協会が助成をするということになっておりますので、そちらの助成について市として支援をしていきたいと考えております。まず、詳細につきましては、13のイベントですけれども、ワカサギの受精卵放流ですとか、子どもの国フェスティバル、THE祭、石狩川下覧権、ラブ・リバー砂川夏まつり、砂川音頭保存会、砂川納涼盆踊り大会、手打ちそば祭り、マラニック、緑粋みこし、北海道義士祭、街頭もちつき、冬まつりが13イベントでありまして、にぎわい創出の事業ということで、先ほどお話をいたしましたまちなかにぎわいにつながる初めて行われるイベント、そして新規イベント団体補助ということで、今後継続していこうとする新しいイベント、そちらについて観光協会として支援をしていきたいということですので、市として支援をしていきたいと考えております。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 市に含まれるかもしれないですけれども、地域おこし協力隊員、そして観光協会等がみんなで協力してイベント、事業をすない等を利用して行っていないとなかなかにぎわい創出につながっていかないと思うものですから、今回いろいろ聞かせていただいたんですけれども、ぜひそういう観点で予算を有効に使って盛り上げていただければと思います。

次に、5目の駅前地区整備事業費の広告料と施設リーフレット、チラシ作成業務委託料の詳細についてお尋ねいたします。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 まず、広告料44万円になりますけれども、こちらについては中空知を発行エリアとしている情報誌がありますけれども、それに施設のPR記事を掲載する予定としておりますので、その掲載料になります。また、リーフレット、チラシにつきましては、リーフレットにつきましては施設のPR用のリーフレットになりまして、チラシにつきましてはオープンを周知するチラシの作成経費でございます。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 先ほどの事業も含めて周知、広報活動がすなわけるにあって重要になると思いますので、いろいろやっただけだと思ひます。

次に、ちょっとまた戻るんですけども、2目の企業誘致費、企業誘致旅費について詳細についてお尋ねいたします。

○委員長 辻 勲君 商工労働観光課長。

○商工労働観光課長 奥山雅喜君 企業誘致費の旅費についてのお問合せだと思ひます。こちらにつきましては、企業誘致を図る上で例えば道外、あと道内と企業訪問を例年させていたでいておりますので、そちらについての旅費について計上させていたでいてるところです。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 状況を見ていろいろなところに行っているのかなとは思ひんですけども、定例会の中で説明の中に学校施設の関係で結構そのまま利用するというような話もあったんですけども、まだ用途が決まっていなような施設も学校施設2校、3校、石山中学校等を含めるとあるかと思ひるので、企業誘致、そこを利用してというようにも今後重要になっていくのかなと思ひんですけども、その辺りは経済部としてはどのように考へているかお尋ねいたします。

○委員長 辻 勲君 商工労働観光課長。

○商工労働観光課長 奥山雅喜君 ご質問の今後閉校となる学校の取扱いということで、こちらにつきましては教育委員会と連携をさせていたできまして、昨年の企業訪問のときに、今の段階での市の学校の状況について公益財団法人の日本立地センターという企業誘致を取りまとめている団体があるんですけども、そちらと情報交換をしながら今後の企業誘致等のアドバイスをいたでいておりまして、我々としてもそちらのアドバイスをいたでいた後、市内金融機関ですとか、そちらに情報提供させていたでいたりという取組を今しているところでございます。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 非常にいろいろ企業誘致につながる可能性の高い学校施設、可能性があるのかなと思ひますので、そのことも観点に入れながら旅費を有効に使っただけだと思ひます。

終わります。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありませんか。

武田真委員の質疑は午後からにいたします。

午後1時まで休憩します。

休憩 午前11時54分

再開 午後0時56分

○委員長 辻 勲君 休憩中の委員会を開きます。

休憩前に引き続きまして第1項商工費について質疑を続けます。

武田真委員。

○武田 真委員 それでは、私からは206ページ、5目駅前地区整備事業費について伺いますけれども、まず低濃度PCB運搬処理委託料が出ておりますが、これはどういう経過で発生したのか伺います。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 PCBにつきましては、旧パチンコ店の建物がありましたところですが、建物を解体するに当たって、その建物に照明がありまして、その照明に含まれていたPCBでありまして、解体後においては市の車両センターで保管をしていたところがございますけれども、PCBの特別措置法によりまして令和9年3月までに処分をなささいということになっておりますけれども、この駅前施設整備事業につきましては今年度、令和7年度で事業が終わることから、このタイミングで処分をするといったことでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 措置法の関係ということなんですけれども、そうしますと建物を売買するときにあらかじめこれがあったということが分かっていたのかなと思うんですけれども、この費用分担についてどのように整理されたのか、売主なのか買主なのか、この辺をちょっと伺いたいと思います。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 正直申しますと建物売買のときにはそういったものがあるといったことは把握はしておりませんでしたので、その後私どもが建物を取得しまして解体を行った際に解体業者からこういうものがあるよということで確認がされましたので、そのような処分をしていくということになります。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 古い建物でありますし、電気設備も使っているもので、通常はそうしたものがあろうという前提で契約をするということで、通常の不動産取引であれば特約等を設けて費用分担、売買後によくあるパターンですけれども、売買後に機器が発見されたというのはよくある場面なので、トラブル防止に備えて契約に特約等を設けるとというのが通常の土地売買取引かと思うんですけれども、この辺特約等も設けていないで売買契約を取り交わしたということではないのでしょうか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 建物の売買に当たりましては契約を交わしてということですので、私もその当時担当でもなかったんですけれども、私の記憶ではそういう特約条項は設けていなかったと記憶をしているところでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真議員 特約がないとどういうことになるかという、結局そういうことになるんです。どちらが負担するんだということになって、一般の民事条項で処理せざるを得ないんですよ。そうしますと、この場合についてはまずその土地の場所がいわゆる商業地域だと思っんです。住宅街ならば別ですけれども、商業地域、工業地域の土地売買に当たっては当然そうした潜在的なリスクがあるわけですよ、土地売買するに当たって。PCBの問題、措置法もそうですけれども、もう20年以上前からこういう措置法ができて、そういう対応をされていたというわけですから、そういう潜在的なリスクというのは周知の事実、双方にとってです。売主、買主とも双方の周知の事実だと思っんです。ましてや、パチンコ店ですから、電気を大量に使うということで変圧器等に使っているパターンが大体のパターンなんですけれども、そういう機器があるというのは、売主も理解していたとか、知っていたということになれば、これは瑕疵担保責任になるんです。一方的に市がこれを負担するということにはならないと、通常はこう考えるんです。この辺なぜ一方的に当市が市の税金を使ってこの機器の処理の委託料を払うようになったか、その経過、どういう経過でこういう判断をしたのかというのを確認させてください。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 市が負担する経過ということでございますけれども、あそこの建物はいろいろ事情があったといいますか、設計書等もなかったということもありますし、その他もろもろの建物、土地に関する書類もなかなかなくて、私たちも苦慮したというところがございます。それで、市が負担する経過ということでございますけれども、特に契約する際に、契約書においてもそうですけれども、契約する際の協議の中でもそういう話は出てこなかったということもありまして、市が負担するといったことで判断をしたところでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 承認する、しないの話はまた別として、きちんとこれは確認しましたか、市の法務あるいは弁護士に。これは、瑕疵担保責任です。当市が逆に売主に対して費用を分担してくれと言える案件です。その辺はきちんと確認した上でこの予算が出てきましたか、もう一度確認させてください。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 この処分に当たっては、弁護士等に確認はしておりません。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 本当に困るんですよ、これは。請求できるかできないかというのは一応法務的な判断もあるので、私この場で100%できるんだとは言えないんです。ですけれども、これは過去の判例、先例を調べた上で幾分の可能性があるなら、売買後の瑕疵担保責任という追及は私は可能な案件だと思っんです。まずその検討をした上で、委託料を使

うか使わないかという話、当市で100%負担するかしないかの判断をしなければならない案件なんです。これは、非常に重大な案件だと私は思います。契約書に1行なかっただけである、なしになって、しかも契約書に1行、一文あればその後のトラブルというのは予防できるじゃないですか。ないのなら、発見された後に誰がそれを分担するんだという議論をしなければならないんです。その議論さえしていないと私は聞こえたんですけども、この辺もう一度説明してもらえますか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 解体時において発見されたということなんですけれども、その後どちらが処分するかということについては私どもも協議をしない中で、このような形で市の負担によって処分するといった考えで進んでいるところでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 そう判断した根拠を伺いたいんですけれども。どうしてそう判断したんですか、その根拠を伺いたいんですけれども。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 根拠といいますか、発見した時点で私どもも、私もなかなか法律に関しては素人なんですけれども、実際に市が買い取って市の所有になっている建物において発見されたものでありますので、当然市で処分しなければならないと考えたところでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 事後、売買した後に、契約が終了したから終わりということではないんですよ。先ほども言ったとおり瑕疵担保責任というのはあるんですから、売主が分かっているながら売った場合、重過失で知らないで売ってしまった場合、お互い事後、特にPCBに関しては特措法があって、これは重大な案件です。これはよく、当市だけではなくて民間の不動産取引でも多々ある案件でありますよね。そういったリスク、契約書に一文がないから、これで終わりということではないんです。当然売主の認識等も含めて、それを協議しながら、これは普通に考えたら当然PCB機器がある施設なんです。先ほど説明しましたけれども、昭和に建てられた建物です。皆さんよく昔は、今はもう使っていないですけども、蛍光灯を昔よく使っていましたけれども、昭和の蛍光灯はPCBが入っていたんですよ、家庭用についても。なぜ入っているかといったら、要はコンデンサーというか変圧器、電源を安定させるための作動油として非常に長期間保存できるものなんです。私が何でこんなに詳しいかというと、20数年前に室蘭の胆振支庁で環境保全をやっていたものですから、当時そういう議論があって、室蘭に工場を造るか造らないかという議論をしたのを覚えているものですから言うんですけれども、それがまず前提ですよ。古い電源機器にはそうした作動油、PCBが入っている機器がある可能性が極めて高い。まず、そこが前提です。

現状の民間の不動産取引においても、そういうリスク、PCB特措法もありますから、そういうリスクを踏まえて契約をしているわけなんです。仮に特約がないとしても、民法の一般条項を使って責任の分担というのはお互い、裁判というのは極端な事例ですよ。だけれども双方の代理人を通じてお互いどのぐらい分担しますか、あるいは100%になるかという、その協議をした上でここにきているんだとならないと、一方的に当市がこれを負担する義理はないんです。そこを今私非常に困ったなと実は思っているんです。そこがないのに、一方的に当市が100%これを負担するという根拠がなくなってしまったんですよ。どう思いますか。どう思いますかって言われても困ると思うんですけども、私も非常に困っているんですけども。

○委員長 辻 勲君 暫時休憩します。

休憩 午後 1時08分

再開 午後 1時09分

○委員長 辻 勲君 委員会を再開します。

経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 PCBの関係でございますけれども、私も当時担当でなかったこと、これは言い訳にはならないですけども、もう一度当時の契約書等も再度確認して、また法律的な面も確認しながら、この対象にどのような形で対処していいのかということところはもう一度確認しながら進めさせていただきたいと思います。

〔「委員長、暫時休憩」との声あり〕

○委員長 辻 勲君 暫時休憩します。

休憩 午後 1時10分

再開 午後 1時15分

○委員長 辻 勲君 委員会を再開いたします。

経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 私のほうで当時の契約書は確認をさせていただいたところでは、それで、契約書の中に瑕疵担保責任ということで、土地等に関して隠れたる瑕疵、その他いかなる問題があっても土地等の引渡し以降は乙の責任、砂川市ですね、乙の責任と負担によりその一切の処理を解決し、甲に対して何ら請求をしないものとしている。そのような契約になっておりますので、砂川市で負担をさせていただいて処分するといったことでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 では、続きまして屋外分煙施設の設置工事について伺います。

まず、この財源について伺います。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 財源につきましては一般財源ということでございますけれ

ども、その施設整備に要する経費につきましては特別交付税の措置がありまして、施設整備に要する経費の2分の1が特別交付税として措置されるものであります。ただ、経費上限がありまして、対象経費の500万までが上限ということで定められているところでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 特別交付税がというような話だったと思うんですけども、他の自治体の事例を見ますと、一番分かりやすいのは最近道議会で2019年頃かな、こういう話が出たときにJTに設備を寄附してもらったというような話も伺っているんです。その辺は、一般財源を傷めない形でそういった形のJTの寄附等、この辺は考慮しなかったのかどうか伺います。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 JTにおきましては、いろいろ分煙に対するアドバイスですとか、さらには大通公園に札幌のあたりではJTに寄附をいただいて設置しているという話をお聞きしているところでございますけれども、間接的な話なんですけれども、分煙施設を扱っている業者にお聞きしますと、大都市的なところはそういう寄附といった対応はあるかなということで、こういう小規模といいますか、人口のあまり多くないところにはなかなかそういう措置というのは回ってこないという話は伺っているところでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 昨日の総括質疑を含めて伺っていくと、いわゆる開放型の分煙施設ということになっているかと思えます。要は天井ががばっと空いているものかなと思ったんですけども、先ほどの答弁を伺っていて、私もちょっと聞き取れない部分があったんですけども、要は受動喫煙の危険性がないと私は聞こえたんです。ただ、ないと言い切ったかどうかは、ちょっと私の聞き違いもあるかもしれませんので、そこは再度確認なんですけれども、こういう主張というのはJT側から出ているのは私は見たことあります。開放型の屋外分煙施設、受動喫煙の危険性はないと言ったか少ないと言ったかどうかは私の記憶のあれもありますけれども、少なくともそう主張しているのはJTだけなんです。もちろんたばこ販売しているわけですから、そう主張するんですけども、一方では研究者、厚生労働省からも、そうであっても開放型であれば受動喫煙の危険性があるという認識なんです。当市においてはその辺はどのように、開放型の分煙施設は受動喫煙の危険性をどのように認識しているのかを確認いたします。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 分煙施設の設置に当たりましては、それぞれ開放型、あと密閉型というものがございまして、設置に当たってそれぞれ検討を行ったところがあります。それで、分煙施設につきましては、私どももいろいろな資料を見ておりますけ

れども、100%受動喫煙が発生しないといった、そういった記載といたしますか、そういった話にはなっていないで、限りなく受動喫煙を防止させるという表現が多いところでありまして、それで私どもは開放型ということでございますけれども、密閉型におきましても当然煙が内部に滞留しますので、それを外に排気する必要がございます。それで、通常は横の壁に換気扇をつけて排気することになりますけれども、密閉型におきましては換気扇から比較的低い位置で水平方向に横に煙を排気するような形になりますので、これについても少なからず通行人等に影響が出るものということが考えられますけれども、開放型も当然外、上になりますけれども、外に排気するというところでございますので、それぞれ外に排気しますので、完璧に受動喫煙をなくすということは考えられておりませんけれども、少なからずといたしますか、とにかく分煙施設を決められた場所に設置して、喫煙エリアと非喫煙エリアを分けることが重要であるのではないかと考えているところでもありますし、その中で設備の仕様ですとか様々な内容等を検討して、私どもといたしましてはパーティション型、開放型において決定をさせていただいたところでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 よくある開放型の設置場所として建物の屋上に置くとかというのならそれはあり得るのかなとは思いますが、これは地面付近なんです。高さが2.7メートルといたしても、地面付近、近隣には2階建ての建物があったりしますと、当然煙は上に上っていくわけですから、当然受動喫煙の危険性も高まるわけですし、私なぜこれ言いますかということ、最初実は密閉型で空気清浄機でもついたような強固な施設だと、コンテナ型のものかなと勝手に勘違いしていたものですから、予想外の開放型で、天井に大きく開口部があるような施設だったとは思わなかったものですから、この質疑をしたわけでありまして。

続きまして、利用時間なんですけれども、大体どういった時間帯でこれを、まさか24時間運用しているとは私も思っていないんですけれども、どういう時間帯、区切って運用するのか、この辺の利用の運用形態がどうなっているのかを確認をさせていただきます。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 今回設置する屋外分煙施設につきましては、先ほども言いましたとおり交付税措置を受けることを予定しているところでございまして、交付税措置を受けられる施設といたしましては利用者を限定せずに一般に開放するといった施設を対象としておりますので、特に利用者の限定はいたしませんけれども、利用時間については、施設の設備になりますので、施設の開館時間に合わせた運営を考えているところでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 ただ、昨日の総括質疑でイベント等においても使うという話がありましたが、それはイベント等の場合には深夜まで動かすとか、そういった運用をされるという

ことなんでしょうか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 イベントを行う際は、施設の開館時間を延ばして広げてやるということも考えられるところでもありますから、それは施設の開館時間内ということで、その部分については開放して運用していくということでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 それと、昨日の質疑で私もちょっと聞き漏らした部分もあるかと思うんですけれども、その運用の主要な利用者の利用者像です。イベントがメインなのかのようにも聞こえたんですけれども、これは大きなイベントに備えてこれを造るんだという認識でいいのか、それとも日常的に平日の利用者が利用するというイメージで、要は4人入れるというような設備の規模であるとか、その辺はどのように設備の規模を設定したのかというところがありますよね。イベントで使うのがメイン、あるいは通常使うのがメインかどうかはちょっと分からないところがあって、それで何人入れるという設計にしたのかとは思いますが、この辺の考えを伺いたいと思います。

○委員長 辻 勲君 暫時休憩します。

休憩 午後 1時24分

再開 午後 1時27分

○委員長 辻 勲君 委員会を再開します。

経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 先ほどの時間的な運用のところでございますけれども、施設の開館時間ということで、設置を予定している駐車場につきましては施設の開館時間に合わせたの運用を予定しているところでありまして、屋外分煙施設についてもそういった開館時間に合わせたの運用ということで考えておりますけれども、ただ特にドアを閉めてですとか、チェーンを張ってといった規制というものはかける予定はしておりませんので、そこでまちなかを通行する人が時間外にそこに入って吸うといった部分については私どもも規制はかけることはできないと考えているところでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 それはちょっと予想外の答弁で、そうなる恐らくそういうところをたまり場にするとか、周辺環境の悪化、治安の悪化につながるような措置ではないかなと思いますし、後で話そうとは思ったんですけれども、受動喫煙が100%防止できない施設ということで、そうした施設がほぼ24時間運用されているということ、地域の方々是非常に不安になると思うんです。うちの近所にこういう施設ができて、日々、日夜人が出入りしている。それはどうですか、私は非常に気持ち悪いなと思うんですけれども、であればきちんと周辺の人に説明するというのが先にあるべきではないですかね。昨日の総括質疑を伺っているとその辺はしていないんだ、ホームページで公開するんだということに

なっていますけれども、そうはならないですよ。そもそも工事するときも恐らく周辺自治会の皆様にいろいろご相談した上で工事を進めたと思うんですけども、恐らくこの施設ができて、聞いていないよという人が出てくると思います。この辺はどう認識しておりますか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 分煙施設を設置することについては、喫煙する方はよろしいかと思っておりますけれども、たばこを吸わない方にとってはあまり望んでいる施設ではないということでもありますし、完璧に受動喫煙を防止するといったこともできないとは考えております。少なからず周辺にも影響は出るのかなとも考えておりますので、今ご指摘のあった周辺への周知ですとか、そういったことについては今後私どもも検討しまして周知方法等を考えて実施していきたいと、周知を徹底していきたいと考えております。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 これは、今後の検討ではないんですよ。造る前に、予算をつくる前に置くべき手続かなと私は思います。できた後に、できましたからよろしくということにはならないです。あくまでもその周辺環境の状況も考えて、了解を得ながら事業を進めていくというのが私は筋ではないかなと思うんですけども、ちょっと一旦立ち止まって考えるべきではないかなと今聞いて思いました。運用の部分もそうです。24時間運用して、周辺環境の悪化等、これはないとは言えないですよ、もはやそうなると。例えば周辺にたむろする人も出てくるだろうし、受動喫煙も100%防止できないということになれば、周辺環境の悪化というのはやはり懸念すべきところでもありますから、周辺自治会、住民の方にまずご相談するのが先ではないでしょうか。この辺は一般質問になりかねないので、言及にとどめますけれども、そこの配慮が全て欠けているなということしか今の質疑では分かりませんでした。それと、あとは周辺住民が、やはりここが一番重要なところです。

私の質疑についてはこれで終わります。あとは、また別の質疑があろうかと思えます。私は取りあえずこれで終わります。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 私は、2点についてお伺いしたいと思います。

まず、1点目ですが、203ページのところの地方創生臨時交付金事業（生活者支援分）に要する経費の中小企業振興対策事業、プレミアム商品券発行事業補助金の関係でお伺いをしたいと思います。ここは毎年発行されている部分なんですけど、昨年のことを踏まえながら新年度はどういう形を考えているのかということをお聞かせいただきたいと思うんですけど、正直昨年も発行されていますけれども、これは砂川市民全世帯に向かって発行した。ただ、発行はされたけれども、その前の年から比べても発行数、要するに購入者が減ったという状況があったかと思うんです。この辺は、恐らく商工会議所を主体としている部分があるので、報告が来ているのではないかと思うんですけど、その辺を踏まえなが

ら令和7年度は、せっかく市民の皆さんにこういうプレミアム商品券を活用してほしいという目的があるわけですから、やはり多くの市民の皆さんに購入してもらって活用してもらって、そして経済に対してもプラス方向にいくんだというのがこれは一つの形かなと思うんですが、この辺を含めて、まずその辺の考え方はどうなっているか聞かせていただきたいと思います。

○委員長 辻 勲君 商工労働観光課長。

○商工労働観光課長 奥山雅喜君 プレミアム商品券の購入割合ですとか、次年度に向けての取組についてのご質問かと思います。まず、プレミアム商品券なんですけれども、来年度につきましては本年度と同じプレミアム率30%、販売額は1セット5,000円、額面6,500円になります。1世帯当たり4セット購入できるという制度になっておりまして、これも昨年と同様であります。販売期間につきましても昨年とほぼ同じかなと思っているんですが、販売場所についてはすなわちで販売をしていきたいと考えています。

販売率に関してなんですけれども、こちらは令和元年のときには2,000セット限定ということで販売させていただいておりまして、コロナ禍ということで令和2年、令和3年、令和4年につきましては市内の飲食店、小売などがかなり危機的な状況でありましたので、プレミアム率を50%に上げて対応してまいりました。令和5年、令和6年、そして来年度についてはプレミアム率30%ということとしておりまして、購入世帯の割合ですけれども、令和4年、こちらは50%のプレミアムの最後の年なんですけど、令和4年では68.7%、令和5年、一昨年については57.5%、こちらは30%にプレミアム率を下げたという影響がやはり大きいのかなと考えております。昨年については、令和6年、本年度については57.3%ということで、令和5年と令和6年についてはほぼ購入率というのは変わっていないのかなと思っています。やはりプレミアム率が大きく、30%になったということもあるんですけども、商工会議所とこの間協議をしてきまして、一昨年までは木曜日、金曜日、土曜日という販売でスタートしていました。こちらはゆうで販売したんですけども、それから商工会議所で1か月間販売をしてきたということでございますけれども、昨年につきましては土曜日と日曜日に時間をちょっと広げて販売をしたということであります。土曜日、日曜日に販売することで購入率も上がってほしいという願いも込めて実施したんですけども、結果的には購入率は変わらなかったということであります。来年度につきましても、こちらは9月から予定しております。現在商工会議所といろいろ協議を進めておりまして、何とか多くの市民の皆さんにプレミアム商品券を購入いただきたいという思いもありますので、例えば夜間ですとか、あと土日に販売したんですけども、購入率が上がらなかったということもあるんですが、販売場所の検討ですとか、その点について改めて今後会議所と協議を深めていきたいなと考えているところでございます。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 大体販売の率については正確に言っていただいたので分かりましたけれども、ただ60%を切っている状況の中で、これは砂川商工会議所からもたしか要望の中にも入っていますでしょうし、市もそれと連動するというので、ある面で60%、要するに今までを少しでも超えるような形というのは令和7年度においては達成してほしいなと思うものですから、それは会議所とのいろいろな検討、協議があるかもしれませんが、なぜ今までこうだったのかということをしちんと確認し合って、そして一人でも多く、一世帯でも多くの人に購入してもらおうといったことをしっかりやっつけていかなければ、せっかくこのように多くの予算をつけて、そしてなおかつ利用者にとってはプラスになるのだということになると思いますので、この辺はしっかりやっていただきたいと思いますが、恐らく新年度については今ほど答弁いただいた部分、販売の場所だとか販売時間だとかを含めてということがある部分では主体的なものということでよろしいのかどうか確認だけ聞かせていただきたいと思います。

○委員長 辻 勲君 商工労働観光課長。

○商工労働観光課長 奥山雅喜君 こちらの事業は会議所さんの事業に対して補助しているものなんですけれども、会議所と十分協議をして、購入割合が高まるように販売日時、場所等を検討していきたいと考えているところです。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 ありがとうございます。それでは、令和7年しっかりとやっていただきたいなと思います。

続いては、207ページ、駅前地区整備事業費の中での管理委託料、工事請負費、屋外分煙施設設置工事について私からも何点か聞かせていただきたいと思います。昨日総括質疑をさせていただいて、概要的なものを含めてはお聞かせいただきました。基本的に私の考えは変わっておりませんので、恐らくここは見解の相違が多々あるのかなと思いますが、今の武田真委員の質疑を通して、なおさら難しいよねというのを私は実感として受け止めております。これは質疑ですので、確認をさせていただきたいと思うんですが、まず武田真委員が質疑した関係の利用時間の関係、基本的には会館の開館時間内であるけれども、駐車場自体は、車もその時間に合わせた利用だけれども、基本的には出入り自由だから、いつでも誰が使ってもいいよといったような話だったかなと思っております。たまたま私も町内の会議があって何人かのお話を聞いていると、開館時間について話になりました、正直。夜使われるのだろうかねとか、どうなのだろう。その中には、24時間になるかどうかはあした質疑して聞いてみますということ saying いたんですけれども、夜、要するに24時間誰か自由に使える。それはそういう形なのかもしれないけれども、ただ喫煙をしている成人であればいいけれども、本来吸ってはいけない人方も含めて、ああいう場所というのは、言葉悪いですけども、たまり場的になってしまう要素があると私は思っています。恐らく駐車場は開館時間外は使えないけれども、でも屋外分煙施設はいつでも使

えますよなんていうことは私はあつてはいけないのではないかなと思うんですけれども、この辺はやはり先ほどの答弁と変わらないで進めていくということでもいいのかどうか、初めに聞かせていただきたいと思います。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 利用時間につきましては、なかなか開館時間以外においても規制をかけるということが難しい。パーティション型になりますので、出入口のドアもございませんので、なかなかそういった意味では入れないようにするといった規制は難しいといったことでもありますので、その辺については利用される方の制限はなかなかできないといったことでもあります。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 制限はできないということだということで、ちょっと視点を変えて、開館時間内だと管理をされていると私は思います。でも、開館時間以外は管理をされていないというのは普通に考えます。そのときに、たばこですから、喫煙ということは火気も含めてその辺の安全管理はどこまでできるのだろうという部分があると思うんです。この辺も含めてどういう考えをされているのか聞かせていただけないでしょうか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 安全管理ということでございますけれども、開館時間内であれば施設を管理する者が随時といいますか、定期的に見回りですとか、そういった管理ができるということでございますけれども、開館時間外についてはなかなかそういった管理ができないということでございます。あと、火気の関係でございますけれども、それについては施設の仕様といたしましては防火対策、耐火的な素材となっておりますので、その辺は火災の延焼的などところは防げるのではないかとということで私どもは考えているところでございます。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 答弁いただいたので、何を言おうとしていたか忘れてしまった。それで、要するに開館時間は管理をされています。でも、開館が終わった後、要するに夜から朝方までは管理の目が届かなくなるわけですから、駐車場という公の施設の中にある分煙施設です。そこで開館時間以外に何か起きたときというのは、管理責任の関係というのは誰に行くんでしょうかね。ちょっと関連するので、聞かせてください。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 駐車場の管理の責任ということでございますけれども、私もあまり確定的、まだちょっと勉強不足なところもありまして確認はしていないんですけれども、市が所有する施設でのどういった関係、事故といいますか、そういった事象が起きるかもしれませんけれども、その事象によってそれぞれ所有している市の責任であるですとか、それ以外の方の責任であるとかということところは事案によっては変わってくるもの

ではないかと今は思っているところでございます。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 正直準備も含めてまだ不足しているのだろうなど、私は今のお話を聞かせていただいて感じております。この関係で、質疑なので言いづらいんですけども、基本的には駐車場に分煙施設を設置しますよというのはもう方向的に出されておりますので、先ほどの質疑をいろいろ聞いていると、基本的に駐車場自体は開館時間外は使えませんよ、でもそんなに入りができないようなきちんとしたことはしませんよというのが今までお話がありました。これは他のところの事例ですけども、敷地を広く取っているところがあって、国道と市道とつながっていて、皆さん通り抜けしたりとか、いろいろするんです。もちろん人もそうだと思います。ですから、そういったような開館している時間帯の管理と開館時間以外の管理のきちんとした形が恐らく今ないのだろうなと思いますので、そういった部分で果たしてそれで管理がしっかりとできるかどうかという部分についてはこの分煙施設は心配でありますけれども、ちょっと広くなった聞き方をしておりますけれども、この辺を含めて考えがあるのだったら聞かせていただけないでしょうか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 施設の管理を含めてということでございますけれども、施設においては今現在施設内に1か所防犯カメラを設置しているところでございますけれども、それで今現在いろいろ指定管理者等々とも打合せをする中で、それぞれもうちょっところういったところにも監視カメラが必要ではないかというお話も出ておりますので、その監視カメラについては今後指定管理者等とも協議しながらちょっと増やしていきたいなとは思っているところでございます、それに併せて駐車場においても、今回分煙施設を造るということもありますし、駐車場の管理といった部分もございまして、そういった部分においては監視カメラも活用しながらそういった管理をしていきたいと考えております。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 まずは今お聞きしていることについてはこれで終わりますけれども、次に分煙施設の設置ということで昨日の総括質疑では場所的には駐車場の南側、西1条と西2条の間だけけれども、この辺はまだはっきりしておりませんというところであったので、あそこは現状は南側というのは西1条側のところは砂利敷きの車が止められるようなちょっと広い駐車場的なものがあって建物があると。西2条側については、角地に2階建ての家があるという状況なんですけれども、それで先ほどから、昨日からもそうですけれども、基本的には分煙施設を造っても喫煙した場合は受動喫煙は100%防げませんよというのはもう答弁で言っていますので、私はそこが問題だと思っている一人でもありますけれども、そうなる煙が上に出て拡散したからいいですよというような私は受け止め方をしているものですから、であれば、先ほども質疑ありましたけれども、周辺に対する配慮義務

というのが出てくるかと思うんです。この辺は、そういったことをする以上は、特に市が公費を使って造る施設ですから、より一層そこについての責任は重くあると思いますので、配慮義務について私はしっかりとやるべきだと。配慮義務がもしきちんと対応できない場合には、例えば南側に、今空地になっていますけれども、家が建ちます。でも、分煙施設があるから建てることはできません。やめますという場合も場合によたらいろいろな形の関係が出てくることもありますし、周辺からは、先ほど初めに委員が言われていた部分で、例えば近間であれば窓を開けられない場合もあるかもしれないといった部分はあると私は思っていますので、というのは私も正直仕事で作業をしているときにたばこの臭いがあるなど、30メートルぐらい先から流れてきているなというのを感じる時があるんです。ですから、たばこの臭いはやはり長く流れる部分があると同時に、たばこの臭いイコール有害物質が来ているという意味合いでもありますから、そう考えたときにやはり周辺への配慮義務というのはきちんとしなければいけないと思うんですけれども、いま一度その辺のことをしっかりと考えてほしいと思うんですが、どういう考え方をされているのか聞かせていただけないでしょうか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 周辺への配慮義務ということでございますけれども、当然分煙施設を造ることに対して周辺への周知等々は徹底していきたいと考えているところでございます。ただ、設置場所の検討に当たっては、現状の状態を踏まえまして、できる限りそういう周辺のアパートですとか、住宅等々に影響のないような場所を選定して設置をしたいと考えているところでございます。そういったことから、周辺への周知は当然行いますけれども、そういうことを踏まえて私どもも設置していきたいと思っております。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 いろいろな理由をつけながらというか、理由と言ったら失礼ですね、いろいろな諸事情を含めながら周知には努めるということで、その辺はお話を聞いておくことにしておきますが、それで駐車場に設置ですけれども、基本的にたしか昨日の説明であれば3メートル四方だということで、であれば我々に説明で示された部分の駐車場の利用台数だとか使い方というのが多少変更というか、変わってくるかと思うんですが、この辺は変わるのであればどういう形なのか聞かせていただけないでしょうか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 分煙施設の大きさ的には3メートル四方ですので、駐車場の駐車枠でいきますと2台分のスペースが必要であるとは考えておりますけれども、ただ私どもといたしましてはそういった安全等も考慮して3台か4台程度のスペースは取って設置はしたいと考えているところでございます。それで、駐車場の台数ということでは今現在設計で計画している駐車台数については60台を予定しております、そのうち10台は月ぎめといいますか、そういう形で貸付けを予定しているところでございますので、

それらを含めると大体常時45台程度の駐車台数は確保できるということで考えているところでございます。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 駐車場の利用についての台数関係は分かりました。それで、屋外分煙施設設置工事ですから、そもそもこの屋外分煙施設はどういう建て方をするのか。パーティションで造るのは分かるんです。例えば土台を造って、しっかりとした骨格で造っていくのか、もしくは簡易に土台をしていかれるのか、今の段階でどのような形を考えているのか。まず、その件を聞かせていただきたい。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 設備の構造でございますけれども、素材についてはアルミ材と、あとポリカーボネートといましてプラスチックの一種なんですけれども、そのようなパネルを用いまして半透明なパネルで囲うような形にしておりまして、あと基礎についてはしっかりと基礎を造って、風等にも対応するような形でしっかりとしたものをつくっていく予定としております。

○委員長 辻 勲君 沢田広志委員。

○沢田広志委員 この工事請負費は667万7,000円ということで、ただこの分煙施設設置工事以外のものも入っているものですから、果たしてどのぐらいの金額を使ってどのぐらいのこういった形のものを作るのかというのがちょっと見えなかったものですから、改めて聞かせていただきました。このことについてはそろそろ駅前施設のすないうもオープンが近くなってきますから、この分煙施設というのは、ちょっと中身の部分で聞かせていただきたいんですけれども、いつ頃から工事を始めて、いつ頃から喫煙、要するに分煙施設としての利用がされるのか、この辺どういう考えをされているのか教えていただけないでしょうか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 この分煙施設につきましては、予算のご承認をいただけましたらすぐに入札、発注をかけまして、それから大体2か月から3か月程度かかるということで、オープンには間に合わないというところがございますが、ただ夏場に控えているイベント等には間に合うような形で7月中には設置を完了したいと考えているところがございます。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありませんか。

小黒弘委員の質疑は休憩後に行います。

10分間休憩します。

休憩 午後 1時56分

再開 午後 2時03分

○委員長 辻 勲君 委員会を再開いたします。

小黒弘委員。

○小黒 弘委員 私も屋外分煙施設の関係なんですけれども、いろいろな議論があつて、せつかく新しくスタートするこの駅前の施設なんですけれども、本当にこんな急に残念なことになりますね。質問から始めないと駄目なので、先ほどこれまで考えてなかった駐車場あるいはこの分煙施設に向かって防犯カメラをつけるというお話があつたんですけれども、何のためにつけるんですか、誰を防犯するためにつけようとするんですか。

○委員長 辻 勲君 経済部審議監。

○経済部審議監 畠山秀樹君 現在指定管理者等々と運用的な部分の細かいところを協議している中で、施設内に1か所設けている防犯カメラ、監視カメラのほかにも、そういった目の届かないところ、駐車場ですとか、また広場関係、または多目的室等々、ふだん見回りすれば目が届くんですけれども、見回りしない部分においてもそういう目の届かないところについては監視カメラが必要ではないかということで設置を今現在検討しているところでございますので、防犯カメラというよりも監視的な部分で、駐車場におきましては車同士の事故ですとか、車の当て逃げといったことも想定されるところでございますので、そういったことも含めて駐車場にも設置したほうがいいのではないかとということで今現在協議を進めているところでございます。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 この施設の議論がなかったら、そんな話は一個も出てこなかったでしょう、今まで。自分たちでもこのまま放っておいたらまずいなって、管理者もいないしね。だから、何か見張っていなければ駄目だなという思いになって、今急にそうなったんでしょう。本来だったら開館の間だけですよね。だけれども、市長から声がかかって、それはまずいのではないのと、24時間できるようにしてきた。こういうことをやらないほうがいいですよ。だって、新しくこれから、僕もいろいろ言ってきましたよ。そもそも私としては喜んでという施設ではないんですよ、施設全体が。それで、またこれをどうしてこの砂川でやるんでしょう。本当に喫煙場所が欲しいんだったら、中央公園でやればいいじゃない。こんなせつかく新しいところでスタートしようというところで、いろいろな議論が起こるような施設を何で造らなければならないのだろうと本当に思います。市長、これ予算の中からこの分煙施設の関係削除しませんか。

○委員長 辻 勲君 市長。

○市長 飯澤明彦君 分煙施設につきましては、路上喫煙の防止という観点から始まっておりますし、この施設があくまでも受動喫煙の防止というところから予算計上に上がっておりますし、また昨日もお話をしましたけれども、協議会の中でもいろいろなそういった協議をしていただきまして、こういった形が望ましいということでございますので、そのままの予算でいかせていただこうと思います。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、208ページ、第8款土木費、第1項土木管理費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、210ページ、第2項道路橋梁費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、216ページ、第3項河川費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、第4項都市計画費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、220ページ、第5項住宅費について質疑ありませんか。

高田浩子委員。

○高田浩子委員 それでは、住宅費、225ページの住み替え支援事業に要する経費であります。その中の広告料と用地確定測量業務委託料の内容について伺います。

○委員長 辻 勲君 建築住宅課長。

○建築住宅課長 中山智宏君 宮川団地跡地分譲事業に関わるものでありまして、この内容につきましては子育て世帯等の移住定住の促進を図るため、宮川団地跡地の土地の一部を子育て世帯等に土地の価格を割り引いて分譲する事業を今年度、令和7年度に実施いたします。その中で分筆分譲する用地を確定するための土地の測量に対する予算となっております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 というところで、今後どう進めるのか、広告料については伝えてもらっていなかったもので、それについて伺います。

○委員長 辻 勲君 建築住宅課長。

○建築住宅課長 中山智宏君 すみません、広告料もそうなのですが、印刷製本費等の部分も関わっていますので、それも併せてご説明させていただきます。

まず、印刷製本費11万円なのですが、これについては新聞の折り込みを考えておりまして、新聞折り込みの広告印刷代として印刷製本費を計上させていただいています。広告料65万円のうち38万8,000円について、中空知生活情報誌の広告料及びデザイン制作費も合わせて38万8,000円の予算を取っております。それとあと、先ほど新聞広告折り込みをするということで説明いたしました。それについての手数料として6万8,000円を計上させていただいております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 というところで、まず測量を行うということなんですけれども、測量を行った上で広告をするという理解でよかったですでしょうか。

○委員長 辻 勲君 建築住宅課長。

○建築住宅課長 中山智宏君 測量を行いまして、今11区画を分譲予定でありまして、原則令和7年度と令和8年度の2か年にわたって販売する予定となっております。そして、具体的にどのように販売するかになるんですが、この予算を承認いただいた後に4月中旬に用地確定の測量委託業者の入札を行いまして、4月下旬から9月下旬、ちょっと長いんですが、工期5か月間ぐらいかかりまして用地測量をします。用地確定後、看板設置等を行いまして、これが8月上旬から9月下旬になります。土地の販売の周知期間、先ほどご説明しましたとおり新聞折り込みだとかフリーペーパーの情報誌に対する掲載、ホームページ、広報すながわ等への掲載などの周知活動を実施しますが、これについては10月中旬から11月下旬を考えておりまして、申請の受付については12月上旬、抽せんになりましたら12月上旬から12月下旬を考えておりまして、その後年内には契約等を考えております。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、226ページ、第9款消防費、第1項消防費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、230ページ、第10款教育費、第1項教育総務費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、238ページ、第2項小学校費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、244ページ、第3項中学校費について質疑ありませんか。

武田真委員。

○武田 真委員 249ページのその他教育振興に要する経費のうち、自転車用ヘルメット購入補助金について、詳細についてまず伺いたいと思います。

○委員長 辻 勲君 学務課長。

○学務課長 早川浩司君 自転車用のヘルメットの購入費の補助ということでございますが、7年度に通学時の自転車の利用の許可が、中学生が自転車通学の許可がされているという部分と、併せまして学校における通学の許可条件としてヘルメットの着用の義務化を行うということを踏まえまして、自転車利用時の安全を確保するためにまずは自転車利用が多い中学生からヘルメットの補助を進めたいと考えているところでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 そうしますと、通学に使われている生徒さん、これ全員が対象ということになるのですか、1年生からとかではなくて、今いる生徒さん、来年度の生徒さん全員が対象になるということでしょうか。

○委員長 辻 勲君 学務課長。

○学務課長 早川浩司君 おっしゃるとおり中学生全生徒数です。今想定しているのが2

92名ということで想定をしているところでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 そうしますと、再来年度以降新1年生には1年生のときにこの事業でヘルメットの補助金を出すということでいいでしょうか。

○委員長 辻 勲君 学務課長。

○学務課長 早川浩司君 そうです。おっしゃるとおり、新1年生にはヘルメットの補助をしていくという考えでございます。

○委員長 辻 勲君 武田真委員。

○武田 真委員 そうしますと、よくあるパターンなんですけれども、そうしたヘルメットの事業をする際について交通安全の講座をすとか、そういったことでなく、単にヘルメットを渡して、これで気をつけてくださいとやるのか、それに併せて何か附帯で例えば交通安全教育をすとか、そういうことは想定されていない事業ということでしょうか。

○委員長 辻 勲君 学務課長。

○学務課長 早川浩司君 今回はヘルメットの購入の補助ということでございますので、まず購入に対しての補助ということでございまして、交通安全の部分につきましては随時学校でも安全指導という部分も行われているような状況でございますので、引き続きそれを進めていっていただくようなことを考えてございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 それでは、私も同じくヘルメットの件なんですけれども、このヘルメットについては購入した方に対して補助するのか、購入するかしないか分からないけれども、全員に補助するのかについて伺います。

○委員長 辻 勲君 学務課長。

○学務課長 早川浩司君 基本的には市内に住所を有している中学生の保護者に対して、申請をしていただきまして、その方たちに対して補助をしていくと。購入した方々に対して補助をしていくというような状況でございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 1人当たり幾らですか。

○委員長 辻 勲君 学務課長。

○学務課長 早川浩司君 1人当たり上限5,000円を限度として補助を予定してございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 そういうことであれば、全員が自転車に乗るときにヘルメットをかぶって自転車に乗るということではないということですね。本州ですと学校で指定のヘルメットがあって、校章とかを描いてあって、指定のヘルメットを購入してもらおうという形の学

校が非常に多いと思うんですけれども、そういうことでは全くないということですか。

○委員長 辻 勲君 学務課長。

○学務課長 早川浩司君 ヘルメットについては特段指定はございませんで、市内のお店で購入して、レシートを頂きながら、それで上限額までの補助をするというような状況で今考えてございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 購入に当たっては、市内のお店以外でも大丈夫なんですか。

○委員長 辻 勲君 学務課長。

○学務課長 早川浩司君 市内のお店でということ現在考えてございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 というところで、やはりヘルメットがない状態で高速で自転車に乗ったりすると非常に危険ですので、こういうヘルメットの購入の助成があるという周知、保護者の皆さん、子供たちにもヘルメットをかぶってくださいというような声かけも非常に大事ではないかと思うんですけれども、その辺りどうですか。

○委員長 辻 勲君 学務課長。

○学務課長 早川浩司君 補助のこちらの経費について承認いただきましたら、周知については、新1年生については今小学生、6年生ということでございますので、保護者宛てに文書を送付するなど、周知は今後取り進めてまいりたいとは考えてございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 そのヘルメットについては市内であればということでありましたけれども、特に市内の中のどこで幾らかとか、そういった調査についてはしているんですか。

○委員長 辻 勲君 学務課長。

○学務課長 早川浩司君 先ほど上限額が5,000円ということでお話をさせていただきましたが、市内も含めて市場調査を行った結果、販売価格がおおむね上限額の5,000円ということでしたので、今回こういう形で進めさせていただきたいとは考えてございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 というところで、先ほどからも伝えておりますけれども、本当に自転車での事故も結構多くて、北海道の場合は特に冬場に自転車に乗っている方がいないので、車に乗っている方も自転車がいるという感覚を忘れてしまうようなところもありますので、そういったところの乗り方ですとか、ヘルメットの着用ですとか、学校教育において十分留意して、保護者さんとともに生徒に周知して徹底していただきたいと思います。

以上です。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、248ページ、社会教育費について質疑ありませんか。

高田浩子委員。

○高田浩子委員 それでは、251ページの芸術文化振興補助金の詳細について伺います。

○委員長 辻 勲君 社会教育課長。

○社会教育課長 谷口昭博君 今回の芸術文化振興補助金の詳細ということでございますけれども、今回芸術文化の補助金としまして、芸術文化の奨励及び振興を図るために芸術文化に係る大会等を市内で主催する団体及び大会等に市などを代表しまして出場する者に対しまして当該経費の一部を補助するというものでございまして、大きく分けて大会の開催補助と出場補助、この2つで構成されておりまして、大会の開催補助につきましては全国、全道規模の大会等に対しましては補助対象経費の3分の1以内、空知あるいは中空知規模の大会等に対しては補助対象経費の4分の1以内としておりまして、出場補助は全国、全道規模の大会等は大会の参加料の全額、それとその他の補助対象経費については3分の1以内ということで、制度的にはスポーツの分野に対する振興補助というのがございますけれども、それとバランスを取ったような形で制度設計をしてみたいと考えているところです。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 今まで遠くまで行かれていた方とかは本当によかったなと思うわけなんですけれども、先ほど全国は3分の1と言っていましたけれども、それは行かれる方が見積りを取って、その3分の1、上限なくということによかったのでしょうか。

○委員長 辻 勲君 社会教育課長。

○社会教育課長 谷口昭博君 今回予算の計上の考え方につきましては、スポーツ分野に関する大会等の開催、それから出場補助に関しましてはスポーツでは先行して実施しておりましたけれども、芸術文化につきましては補助金制度がないという状況でございました。このことから、制度的な平準化を図るという観点から計上したものでございまして、補助金の適用が想定される事業があつての積算ということではございませんで、直近の文化芸術大会に出場した事例がございまして、それを参考として今回は計上させていただいておりまして、過不足が生じましたら予算の補正等も協議してみたいと考えているところでございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 個人で行かれる方もこういった場合は多いのかなとは思いますが、そういった申請方法とかはどのような形になりますか。

○委員長 辻 勲君 社会教育課長。

○社会教育課長 谷口昭博君 申請の仕方につきましても基本的にはスポーツの振興補助と同様の形と考えておりまして、まだ内部調整している部分がございますので、その辺も

実態とかも踏まえながら制度設計してまいりたいと考えているところです。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 今までなかったところなので、その申請方法等は分かりづらい部分もあるかと思いますが、そういった周知や助成の費用分担等を今後周知していただきたいと思います。

続きまして、255ページ、地域交流センターの運営の経費というところで、大ホールの音響から備品購入と計上されておりますけれども、今年度の工事の詳細についてまず伺います。

○委員長 辻 勲君 社会教育課長。

○社会教育課長 谷口昭博君 工事請負費の詳細ということでございますけれども、今回地域交流センターの部分に関しましては、平成19年1月に地域交流センターゆうが開設されてから18年が経過いたしまして、施設、それから設備の経年劣化が進んでいることがございまして、開設当初から使用してきた備品類、これが交換部品も製造中止になっているということで、故障が生じた場合に改修ができないというような状況が散見されるようになってまいりました。こうしたことから、改修経費を積算したところかなりの膨大な経費になるということでしたので、優先度をつけながら手戻りのないような形で改修につきまして計画させていただきまして、おおむね3期程度に分けた中で音響設備、それから舞台照明設備、さらには環境面や今後の維持管理経費の低減を図る観点から照明設備についてはLED化をしていくというような形で順次計画を進めているところでございまして、今回計上させていただきました大ホール音響設備の改修工事、大ホール等の照明設備改修工事及び室内照明のLED化改修工事もその一環として実施しているものでございまして、これで3期目ということになりまして、これでこれらの設備につきましては一区切りつくというような状況でございます。また、屋上の空調設備の室外機置場付近の吹きだまり防止のために屋上の改修工事も予定しているところでございます。

以上でございます。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 工事の順は、どのような順で行っていくんでしょうか。

○委員長 辻 勲君 社会教育課長。

○社会教育課長 谷口昭博君 工事につきましては順次、開館しておりますので、それに支障がないような形でなるべく閑散期を目標に計画してまいりたいと考えているところでございます。ですので、今年も2月頃に工期を設定しながらやってきたんですけれども、同様の期間になるかなと今のところは見込んでるところでございます。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、258ページ、第5項保健体育費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、264ページ、第6項給食センター費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、268ページ、第11款公債費、第1項公債費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、270ページ、第12款諸支出金、第1項過年度過誤納還付金について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、第2項特別会計繰出金について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、272ページ、第3項開発公社費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、274ページ、第13款職員費、第1項職員費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、276ページ、第14款予備費、第1項予備費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続いて、9ページ、第2表、継続費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続いて、10ページ、第3表、債務負担行為について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続いて、11ページ、第4表、地方債について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続いて、歳入に入ります。16ページから104ページまで質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

ここで申し上げます。議案第7号について沢田広志委員外2名から修正の動議が提出されております。

暫時休憩します。

休憩 午後 2時31分

再開 午後 2時32分

○委員長 辻 勲君 休憩中の委員会を開きます。

ただいま配付しました修正案を本案と併せて議題とします。

提案者の説明を求めます。

沢田広志委員。

○沢田広志委員 議案第7号 令和7年度砂川市一般会計予算へ修正案を提出いたします。

まず1、第1条第1項中、235億9,800万円を235億9,132万3,000円に修正します。

続いて、2、第1条第2項中、第1表、歳入歳出予算を次のように修正します。歳入につきましては、18款繰入金、1項基金繰入金を667万7,000円減額して18億8,557万1,000円に修正し、歳入合計を235億9,132万3,000円に修正します。

続いて、歳出ですが、7款商工費と1項商工費を667万7,000円減額して2億6,167万4,000円に修正し、歳出合計を235億9,132万3,000円に修正します。

続いて、3、歳入歳出予算事項別明細書を次のように修正します。まず、1、総括の歳入ですが、18款繰入金を667万7,000円減額して18億8,557万1,000円に修正し、歳入合計を235億9,132万3,000円に修正します。続いて、歳出です。7款商工費は667万7,000円減額して2億6,167万4,000円に修正し、歳出合計を235億9,132万3,000円に修正します。

次に、2、歳入の18款繰入金、1項基金繰入金の2目財政調整基金繰入金を667万7,000円減額して7億3,790万6,000円に修正します。

そして、3、歳出です。7款商工費、1項商工費の5目駅前地区整備事業費を667万7,000円減額して6,315万9,000円に、14節工事請負費667万7,000円減額してゼロ円に修正します。なお、工事請負費は2項目にわたって経費計上されておりますので、まとめて減額とさせていただいたところであります。

提案の理由といたしまして、駅前地区整備事業での駐車場内に屋外分煙施設を設置することは、公の施設内に公費を投入して喫煙できる場所を造ることであり、このことによつて市が率先して喫煙を認めることとなります。市は既に砂川市がん対策推進条例を制定し、令和6年からは健康すながわ21第3次計画の推進など、喫煙が肺がんをはじめとする多くのがんや循環器疾患、脳卒中や虚血性心疾患などのことであり、慢性閉塞性肺疾患、糖尿病などに共通した主要なリスク要因であることを踏まえ、喫煙に対して市民の健康を守るためにがん市民講座や子供たちへのがん教育などの実施を砂川市立病院をはじめ、ふれあいセンターやがん相談センターなどと共同して取り組んでいることと相反することとなり、屋外分煙施設は市民の健康へ影響を与えるおそれがあると考えますので、ここに提案とさせていただきます。以上の理由をもって議案第7号 令和7年度砂川市一般会計予算の修正案を提案いたしますので、議員各位のご賛同をお願いいたします。また、質疑をいただければ適切な答弁に努めていきたいと思っておりますので、よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

以上を申し上げまして提案説明とさせていただきます。

○委員長 辻 勲君 これより修正案の質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて討論に入ります。討論ありませんか。

〔挙手する者あり〕

ただいま挙手された方の中で原案に賛成の討論を行う方はもう一度挙手をお願いします。

〔挙手する者あり〕

次に、原案及び修正案に反対の討論を行う方はもう一度挙手願います。

〔挙手する者あり〕

次に、修正案に賛成の討論を行う方はもう一度挙手願います。

〔挙手する者あり〕

それでは、伊藤委員、討論お願いいたします。

○伊藤俊喜委員 私からは議案第7号、令和7年度砂川市一般会計予算の原案に賛成の立場で討論をいたします。

分煙施設、いわゆる喫煙所の設置に関しましては、平成30年7月に健康増進法の一部を改正する法律が公布され、非喫煙者への健康リスクに配慮し、受動喫煙を防止するため、大きく屋内の原則禁煙、喫煙室への標識掲示義務づけ及び20歳未満の喫煙エリアへの立入禁止と併せて定義されたものであります。これを受け、望まない受動喫煙を防止するという観点から、令和2年3月には北海道において北海道受動喫煙防止条例を制定し、さらに本市においても砂川市がん対策推進条例の中で受動喫煙防止への対策について定められているところであります。これらから、砂川市においては第1種施設となる病院や学校、市庁舎はもとより、第2種施設のうち、砂川市が管理する公共施設においては敷地内禁煙という措置が講じられております。このように昨今の健康意識の高まりや非喫煙者への健康被害等を考慮しますと、禁煙という手段は有効的であることは明白ではありますが、一般の健康増進法の改正においては望まない受動喫煙の防止の観点を、分煙環境を整備推進することが喫煙者、非喫煙者双方の立場で尊重し、共存できる社会の実現につながり、かつ今後の地方たばこ税の安定的な確保にも資すると見込まれるとしております。つまりどちらか一方を排除するのではなく、互いに理解し合い、協調した社会、共生した社会を目指すことが読み取れます。令和6年4月1日付の地方自治体宛てに発出された総務省の通達においても、望まない受動喫煙の防止及び地方たばこ税の継続的かつ安定的な確保のため、分煙施設のより一層の整備を図ることと要請をしており、このことを踏まえ、現在市街地には受動喫煙防止対策を講じた分煙施設はなく、そのことはむしろ法がうたう受動喫煙防止の観点からいえば適当ではないという捉え方ができます。

今年4月にオープンを予定するまちなか交流施設すないるには、市民が集う新たな拠点としての期待が高まっております。このような中、当該施設の敷地内に喫煙所を設置することは、集客力の向上が見込まれるだけでなく、路上喫煙の抑止にもつながり、望まぬ受

動喫煙の防止やいわゆるポイ捨ての防止など環境保全や衛生面にも寄与できるものと考えます。本案に関しては、砂川駅前施設運営協議会の協議や意向に基づいて措置するものと聞いております。厚生労働省が示す基準を遵守した形で整備するのであれば、様々な関係機関、団体、組織で構成する協議体の答えを尊重し、民意に応えるべく施策として原案のとおり取り進めることが必要であり、そのことは結果として喫煙者、非喫煙者双方にメリットがあるものと考えます。

以上、このような理由から令和7年度一般会計予算については原案のとおり可決すべきものと考えますので、多くの委員各位の理解とご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○委員長 辻 勲君 次に、修正案に賛成の武田委員。

○武田 真委員 議案第7号、砂川市一般会計予算についての修正案に対し、公正会・市民の声連合を代表し、賛成の立場で討論いたします。

修正案の対象となる商工費、第5目駅前地区整備事業費中の屋外分煙施設工事費について以下の問題点を指摘いたします。第1点目として、屋外分煙施設の必要性が見えてこない点であります。本会議の質疑及び委員会の審査において、喫煙は肺がんをはじめとする多くのがんや循環器疾患の主要なリスク要因であることが明らかになっています。本市では、広報を通じた喫煙の健康被害や禁煙治療に関する情報提供、検診受診者への禁煙外来の紹介、小中学生へのがん教育、妊産婦への保健指導など、受動喫煙防止策を積極的に推進してきました。また、令和6年第4回定例会における一般質問に対する市の答弁では、砂川市の受動喫煙対策は、平成29年施行の砂川市がん対策推進条例に基づき、市立病院や小中学校、ふれあいセンター、保育所などの敷地内禁煙を先駆けて実施し、健康増進法改正後も国の基準を上回る対策を継続しているとの説明がありました。このような市の方針に照らしても、公共施設に新たに分煙施設を設置することは整合性を欠くものであります。

第2点目としては、手順、手続及び市民への説明不足の問題であります。砂川駅前地区整備事業は令和元年から市民ワークショップなどを通じて進められてきましたが、これまでの議論の中で分煙施設を求める市民の声は確認されておりません。また、定例会直前まで分煙施設設置の考えが示されておらず、市民への説明が不十分です。特に今回設置する開放型の屋外分煙施設は、煙が周囲に拡散しやすく、近隣の民家に届く可能性がある受動喫煙対策が不十分な施設です。しかも、市では事前に近隣住民に事前説明や意見収集を行っていなかったことが本会議の質疑及び委員会の審査において明らかになっています。

第3点目としては、地方たばこ税の活用に関する誤解であります。令和6年4月1日付の総務省通知、以下、本通知を根拠に地方たばこ税を用いて分煙施設の整備を進めるべきとの主張があります。しかし、本通知の文言を精査すると、分煙施設の整備を積極的に進めていただくようお願いいたしますとはあるものの、お願いという表現や活用も含めとい

う文言からは、地方たばこ税の活用が義務や強制ではなく、あくまでも選択肢の一つとして示されているにすぎません。本通知は、地方自治法第245条の4に基づく技術的助言であり、法的拘束力を持つ指示ではありません。令和6年度税制改正大綱でも、地方公共団体がその重要性を認識し、整備方針や実施状況等の把握を行いつつと記載されており、分煙施設整備の推進は自治体の判断に委ねられております。本通知を地方たばこ税による分煙施設設置の奨励と拡大解釈するのは適切ではありません。

第4点目としては、砂川市まちなか交流施設すないるの利用者像と合致しない点であります。砂川市まちなか交流施設すないるは、駅前のにぎわいの創出を目的とし、若者や学生の居場所となることも期待されています。実際に昨年11月の議会懇談会でも、砂川高校生たちから学生の居場所が必要との意見が寄せられています。しかし、分煙施設の設置は喫煙を容認する姿勢と受け取られる可能性があり、市の禁煙推進政策や教育的観点とも矛盾します。砂川市まちなか交流施設すないるにおける分煙施設の存在が施設のイメージとそぐわないことは明らかです。また、設置が予定されている駐車場は公共の場であり、非喫煙者も利用することから、運営施設の存在が彼らに不快感を与えたり、煙にさらされるリスクを高める懸念があります。なお、砂川市まちなか交流施設すないるのような新設の公共施設では、今後運営を進める中で設備改善や見直しが求められることは当然のことと理解しています。重要なのは市民のニーズや時代の変化に迅速かつ適切に対応することであり、特定の市民の声を優先すべきではありません。市の事業は市民の幸福を目的とするものであり、市民の理解、納得、協力なしに進めるものではありません。そのためにも行政は市民、議会の声に真摯に耳を傾け、情報公開と丁寧な説明を徹底すべきです。

以上の理由から、砂川市まちなか交流施設すないるに屋外分煙施設は不要であり、公正会・市民の声連合として商工費、第5目駅前地区整備事業費中の屋外分煙施設工事費を削減する修正案に賛成いたします。委員各位にはご賛同をお願いいたします。

○委員長 辻 勲君 これより、議案第7号の採決をします。

まず、議案第7号に対して沢田広志委員外2名から提出された修正案について起立により採決をいたします。

本修正案に賛成の方は起立願います。

[起立少数]

起立少数であります。

したがって、修正案は否決されました。

これより、議案第7号の原案について起立により採決します。

本案を、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[起立多数]

起立多数であります。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

ここで10分間休憩いたします。

休憩 午後 2時51分

再開 午後 2時57分

○委員長 辻 勲君 委員会を再開いたします。

293ページ、議案第8号 令和7年度砂川市国民健康保険特別会計予算の審査に入ります。

歳入歳出一括して質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第8号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、353ページ、議案第9号 令和7年度砂川市介護保険特別会計予算の審査に入ります。

歳入歳出一括して質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第9号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、417ページ、議案第10号 令和7年度砂川市後期高齢者医療特別会計予算の審査に入ります。

歳入歳出一括して質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第10号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第11号 令和7年度砂川市下水道事業会計予算の審査に入ります。

収入支出一括して質疑ありませんか。

高田浩子委員。

○高田浩子委員 それでは、14ページ、1款資本的支出、1項建設改良費、1目公共下水道整備事業費についてであります。15ページの公共下水道管渠点検委託料についてですけれども、去年もあったかと思うんですけれども、進捗状況について伺います。

○委員長 辻 勲君 土木課副審議監。

○土木課副審議監 岩崎賢一君 管渠点検のご質問でよろしかったと思いますが、管渠点検については令和4年度から実施しておりまして、機能低下や道路の陥没事故を防止して市民生活の安全を確保するために点検しているところをございまして、マンホール内の目視点検において損傷の確認を行っているところです。点検については、5年に1回の割合で回るように実施を進めているところです。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 不具合があった場合は、どのように対応していくんでしょうか。

○委員長 辻 勲君 土木課副審議監。

○土木課副審議監 岩崎賢一君 点検の結果損傷があった場合には、それに応じて補修を随時行っているという形になります。今まであったのは、マンホールブロックからの目地切れによる浸入水というのが幾つかございました。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 というところで、今後の流れについて伺います。

○委員長 辻 勲君 土木課副審議監。

○土木課副審議監 岩崎賢一君 今後も管渠点検は先ほど述べたように5年に1回になるような形で毎年実施していく予定です。あと、下水道管の汚水については管径が小さいので、損傷の数は大きくはないと思うんですけれども、そういった形で進めてまいります。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 全国的にもいろいろなところで下水道については損傷等の事故等も発生しておりますので、今後も順次適切に点検していただきたいと思います。

以上です。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第11号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第12号 令和7年度砂川市病院事業会計予算の審査に入ります。

収入支出一括して質疑ありませんか。

山下克己委員。

○山下克己委員 28、29ページの資本的支出の院舎改修費についてどのような内容なのかお聞きいたします。

○委員長 辻 勲君 市立病院管理課技術長。

○管理課技術長 大内文雄君 院舎改修費ですが、電話交換機の更新工事であります。更新内容ですが、電話交換機本体と電源装置のバッテリーの交換です。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 こちらは、病院が新しくなった時点で入れたものが古くなったというようなことでよろしいでしょうか。

○委員長 辻 勲君 市立病院管理課技術長。

○管理課技術長 大内文雄君 既存の電話交換設備は、2010年度の導入から14年経過しております。メーカーサポート期間が既に終了しています。それにより、基板等の部品の取り寄せが困難となり、故障障害発生時に修理不可になることが予想されることから、工事を行うものでございます。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 こちらは、企業債を使ってということでもよろしかったでしょうか。

○委員長 辻 勲君 市立病院経営企画課長。

○経営企画課長 堀下直樹君 今委員さんおっしゃいましたとおり、企業債の活用を考えております。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 病院も新しくなってから15年ぐらいたっていますので、いろいろなところが交換しなければならない時期になってきているのかなというところで、46ページを見ると企業債の調書で令和4年、5年、7年と院舎改修事業ということで、いろいろ始まっているのかなと、この頃から始まっているのかなと思うんですけども、これ以外にいろいろと想定される院舎の改修等、今年度は予算的にないということはないのかもしれ

ないんですけども、その辺り計画的に何か押さえていて、今後も計画的に改修していくというような感じになるのでしょうか。

○委員長 辻 勲君 市立病院管理課技術長。

○管理課技術長 大内文雄君 修繕工事計画を策定しておりまして、順次設備の更新とかを進めていきたいと考えております。

○委員長 辻 勲君 山下克己委員。

○山下克己委員 計画的ということですので、そのとおりだとは思いますが、今後恐らくいろいろな改修等が必要になっていくのかなと思いますので、病院の経営の問題もごございますので、計画的に進めていただければと思います。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 何点かありますので、まず4ページなんですけれども、今回は随分前年度と比較して入院の関係の収益が大幅に減となっているんですけれども、まずは7年度の病床利用率をお伺いします。

○委員長 辻 勲君 市立病院医事課長。

○医事課長 川端祥子君 7年度予算の病床利用率なんですけれども、令和7年度予算の積算のときに病床数が365床で算出しておりますが、83.4%になっております。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 結構率いい率になっていますよね。これちょっと心配なのは、今年1月の病棟の利用率を見ていくと、これは前にちょっと触れたことがあるんですけれども、かなり高くなっていますよね、今。それこそ1月でいったらICUは88%だし、それ以外もほぼ80%の後半、病棟によっては90%いっているところもあったりするんですけれども、今回の83.何%でしたか、これで今のこの1月ぐらいの病棟利用率でいってしまうと本当に満杯状態がずっと続いていくような状況なんじゃないかと思うんですけれども、その辺はどんなふうに予想されているのでしょうか。

○委員長 辻 勲君 市立病院医事課長。

○医事課長 川端祥子君 病床稼働率が高くなるのは予想しております。それに合わせた病床数に合わせた人員配置をしておりまして、稼働率が高くなってもその稼働率で行っていく予定になっております。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 もうちょっと声を張ってくれるかな、耳が遠いのか分からないのだけれども、聞きづらいので、お願いしますね。何とかやっていけるということなんですよね。つまり何でこんなことを聞かかという、今回83%の病床利用率で入院収益をこれだけ確保しているということなんですけれども、ここで稼いでいかないとなかなか実際厳しいことなんだろうと思うわけです。先ほども言ったとおり、病棟の利用率もかなり高率になっているので、これ以上入院収益というのがどうやっていったら上がっていけるのかとい

うことをお伺いしたいんですけれども。

○委員長 辻 勲君 市立病院医事課長。

○医事課長 川端祥子君 入院収益の向上に向けた取組ということで、次年度まず取り組みたいと思っているところが急性期治療としての入院日数の適正化というところで、病床利用率もそうなんですけれども、平均在院日数を今よりも日数を多くして収益の向上に努めたいと思うのが1つです。それは、今コロナ禍で感染防止の関係上、平均在院日数が短く経過していることもありまして、今後は疾病に合った標準的な入院日数を適正化するという意味です。それから、救命救急センターなんですけれども、機能の維持ということで、救急搬送患者に対する入院受入れを進めていこうという取組になります。症状によっては帰宅する患者さんもいらっしゃるんですけれども、患者さんの受診する時間、それから年齢、それから世帯の状況、そういうのをいろいろ勘案して、医療安全上の観点から入院の必要性があれば、きちんと判断して入院患者数の向上に努めたいと思っております。そのことでも入院収益の向上は見込めることになります。

まだほかにもあるんですけれども、急性期病院としての必要な手術件数があるんですけれども、その情報発信と実践を進めていこうと思います。診療側、ドクターに対してこの手術が必要だと、そういう情報発信をして、会議だとか院内広報の媒体があるんですけれども、そういうので情報発信をしてドクターに対して周知をする。それで戦略的な施設基準の取得を目指すというところも考えております。そのほかいろいろまだ細かいところはあるんですけれども、今後コンサルの意見を踏まえて、優先事項だとか、あと重要課題、そういうのを見つけながら取り組んでいければと思っております。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 ほとんど理解できたかなという感じで、当年度予定額が84億になっています。今のやり方をしていくとあとどのぐらい増えそうな感じなんですか。

○委員長 辻 勲君 市立病院医事課長。

○医事課長 川端祥子君 予測でしかないんですけれども、先ほど平均在院日数を少し多くしたいというところで、単純計算になるんですけれども、1日増えることで単純計算をしますと12か月で2億円程度増えることになります。でも、これは非常に難しいことなんですけれども、収益的にはそうなります。あと、先ほど申した戦略的な施設基準というのは、これも手術件数がいろいろあるので簡単なことではないんですけれども、大体1億6,000万程度の増が見込まれます。

以上です。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 ごめんなさい、まとめてどのぐらい、大体。

○委員長 辻 勲君 市立病院医事課長。

○医事課長 川端祥子君 まとめますと4億から5億ぐらいは見込めます。非常に、先ほ

ども言いましたけれども、難しいことではあるんですけども、最大といいますか、それは見込めるとは思います。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 つまり可能性が4億から5億はある。なかなか難しいようなんですけれどもあるといういいですよ。要するに入りを増やすか出すを減らすしかないと思っていて、その話を聞いたんですけれども、4億か5億という相当厳しい大変なことなんです。それで、今回補助金が8,000万円ほど前年と比べると増になっているんですけども、この要因はどういうことでしょうか。

○委員長 辻 勲君 市立病院経営企画課長。

○経営企画課長 堀下直樹君 今回8,000万円ほど補助金が増えているというものにつきましては、予算書の5ページの下段になりますが、病床機能再編支援事業補助金というものが今回ございます。こちらは何かといいますと、今回我々のほうで病床数を減少させた87床のうち、回復期病棟、地ケアの部分です。その44床を除いた43床に対して補助金が当たるというものになっていて、1床当たり182万4,000円、これが当たるということになっております。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 じゃ、この増えた分は毎年もらえるということではないということですか。

○委員長 辻 勲君 市立病院経営企画課長。

○経営企画課長 堀下直樹君 今年度、7年度単発といいますか、1回きりになっております。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 今度は支出なんですけれども、給与費が2億9,752万円ほどの減で、これでもまだ給与費比率は65.1%という数字なんですけれども、ただこの約3億分が減ったというのはいいことだとは思われます。この前の提案説明では正職員が34名と会計年度任用職員が89名の減がという提案説明があったんですけども、もう少しこの辺のところを詳しくお伺いします。

○委員長 辻 勲君 市立病院管理課長。

○管理課長 倉島久徳君 7年度予算で正規職員34名の減と会計年度任用職員の89名の減の詳しい内容ということですが、まず医師につきましては職員が5名減、会計年度任用職員が4名増のマイナス1名、看護職につきましては職員がマイナス12名、会計年度任用職員がマイナス41名、合計でマイナス53名、医療技術、コメディカルの方の職員につきましては職員がマイナス10名、会計年度任用職員がマイナス9名、合計でマイナス19名、事務職につきましては職員がマイナス5名、会計年度任用職員がマイナス22名、合計でマイナス27名、労務員につきましては職員がマイナス2名、会計年度任用職

員がマイナス21名、合計でマイナス23名となっております。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 特に正職員、合計で34名、これは合っていますね。詳しいことはちょっと書き切れなかったんですけども、それぞれどういう様子で辞められていっているのか。例えばもう定年を超えているとか、いろいろな理由があると思うんですけども、ちょっとこの職場は多過ぎたから切ったとかと、その辺のところも併せて正職員も会計年度任用職員もお伺いできますか。

○委員長 辻 勲君 市立病院管理課長。

○管理課長 倉島久徳君 今答弁させていただいた職員34名、会計年度任用職員89名、合計123名につきましては、令和6年度予算と7年度予算の対比となりまして、実際の実職員数、令和6年4月1日の実職員数と7年度の予算で申しますと、職員でマイナス25名、会計年度任用職員でマイナス71名の合計のマイナス96名という人数になっております。看護職等につきましては、大きな減員の理由としましては病床削減に伴う病棟の閉鎖に伴って人員の減という形で、退職者に対する補充人数を抑制したことによる減となっております。また、会計年度職員につきましては、病棟削減に伴う職員数の減に伴って任用を止めたというような形になっております。また、医療技術につきましては、退職された方に対して補充を行わず、マイナス4名、事務職につきましても退職者の補助を行わなかったことに伴うマイナス5名、労務員につきましても退職や定年等の関係でマイナス2名というような形になっております。会計年度任用職員につきましても、業務量、病棟の廃止等、患者数の減とかもありますので、それに伴い、見合った適正配置数を予想した中で採用、減員を図っているところであります。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 これは、正職員34名、会計任用職員89名を切っても2億9,700万円しか減にはならないということです。これは、本当に厳しいですよ。これだけ人件費比率が高いということになってくると、まだまだ数字的にいえば落としをいかなければならないんだろうと思うんですよ、経営上。まだ10%は減らないとという多分数字だと思うんですけども、これ以上の職員あるいは人件費、給与費の削減というのはどんなふうにしていけばできると考えられるんでしょう。

○委員長 辻 勲君 市立病院管理課長。

○管理課長 倉島久徳君 人件費の削減の方法というような形のご質問かと思いますが、今後におきましては経営コンサルを新年度から導入しますので、それに伴って院内全体の業務量等を調査しまして、そこに必要な人数が何人かというようなことも積算した中で、全国、全道的な同様な規模、同様な機能を持っている病院との比較を含め、当院の適正な職員数が何名かということも今コンサルで調査いただいているところですので、その人数が分かりましたら、計画的にその必要人数に合わせた職員数に減員していこうと考え

ております。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 まだ聞きたいことはあるんですけども、ちょっとはしょって聞きます。キャッシュフローの関係なんですけれども、今回のキャッシュフローを見ると、30ページ、ここに資金期首残高8億1,000万ほどあります。これまでだとそれこそ現金預金が残っているこの期首残高というものだったんですけども、今回のこの期首残高というのはどういう形で8億がここに書かれているんでしょう。

○委員長 辻 勲君 市立病院経営企画課長。

○経営企画課長 堀下直樹君 このキャッシュフローの期首残高につきましては、令和6年度の補正予算のキャッシュフロー、令和6年度の見込みのキャッシュフローがあるんですけども、そちらの8億1,000万円がきているんですが、今回13億円の一時借入金をしておりますので、一借の要は残高といいますか、そちらの金額になります。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 つまり一時借入金をした分、つまり借金のお金が残ってここに入っているということですね。期首残高を見るとあるのかなと思うけれども、もとは借金だということになるわけですね。となると、今回の今年の資金増加、減少額はもう既にマイナス5億2,000万になっていますから、これを両方合わせてマイナス13億という始まりという結果ということになりますよね、今年。

○委員長 辻 勲君 市立病院経営企画課長。

○経営企画課長 堀下直樹君 今年の始まりにつきましては、令和6年度は約9億円から始まっておりまして、13億円の借入れですので、実質的には約4億9,000万円のマイナスからのスタートになります。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 このキャッシュフローを見ると、先ほどおっしゃったとおりで、この資金期首残高はいわゆる借りたお金で賄ってここに入っているということだと思うんです。どう頑張っても、今回キャッシュフロー的にいうと最終的にはマイナス5億になるんだということだと思うんです。それで、このマイナス5億が普通の状況のままマイナス5億なのかというと、もうちょっと上の3の財務活動によるキャッシュフローというところを見ると、一時借入金による収入が21億なんです。借金まみれでマイナスという状態ですよね、合っていますか。

○委員長 辻 勲君 市立病院経営企画課長。

○経営企画課長 堀下直樹君 委員さんおっしゃるとおり、令和7年度、もし一時借入金をしなければの話になるんですけども、令和7年度の資金増加（減少）額というところが6年度とほぼ同じぐらいのマイナス13億円ぐらいになる予定になっています。実質期首残高が令和6年は約4億9,000万円マイナスということですので、資金の期末残高

については約18億円のマイナスになろうとしております。ただ、今回21億円ということにはなっていますが、総務省から今回病院事業債、一般質問でも議員さんがされておりましたけれども、幾ら今借りられるかというところは分かりませんが、そちらも活用しながら、この一時借入金が必要最小限の額で抑えようと考えておりますので、そちらを利用しながら経営改善を進めてまいりたいと考えております。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 今課長が話されたのは私が一般質問をしたことですね。でも、それも借金ですね。こうやって見ていくと、本当に大変な今状況になっていると思うんです。何とか病院には頑張ってもらわないと困るので、みんなで力を合わせて一生懸命やっていたきたいと思います。

終わります。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 それでは、質問させていただきます。

一般質問の中の答弁でありましたコンサルに関して伺いたいと思います。新年度予算ではどの科目に予算計上されているのでしょうか、まず伺います。

○委員長 辻 勲君 市立病院経営企画課副審議監。

○経営企画課副審議監 阿部雅和君 コンサルテーションの予算計上科目につきましては、金額につきましては契約前ということもありまして申し上げることはできませんが、予算書15ページの16節委託料の管理業務の中に計上しております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 分かりました。一般質問の答弁の中でそのコンサルに関して10名体制ということでお話がありましたけれども、もう少し詳しく伺いたいと思います。

○委員長 辻 勲君 市立病院経営企画課副審議監。

○経営企画課副審議監 阿部雅和君 コンサルタントの体制につきましては、できる限り強力な体制を整えてほしいと要望しまして10名の支援体制となっております。常時10名が当院に来るということではございませんが、構成としまして総務省の経営財務マネジメント強化事業アドバイザーを務める統括責任者を筆頭に、現場担当、経営改善担当、コスト適正化担当、公認会計士である財務収支計画担当などとなっております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 分かりました。いろいろな担当の方がいらっしゃるということで、総合的にコンサルしていただくということなのかなと思いました。それで、先ほど費用について予算計上されておりますけれども、それ以上に多くなることというのはないのでしょうか、伺います。

○委員長 辻 勲君 市立病院経営企画課副審議監。

○経営企画課副審議監 阿部雅和君 コンサルタント費用の予算超過ということでござい

ますが、コンサルタント業務委託契約では例えば訪問に係る旅費が別途請求されるタイプですとか、成功報酬型とか、様々な形態があると思います。当院が契約しようとしている内容につきましては全ての費用を含んでおりまして、特別な事情がない限り予算の範囲内での執行と考えております。

○委員長 辻 勲君 高田浩子委員。

○高田浩子委員 全ての費用を含んでいるというふうなお話でした。やはりコンサルがないのが本当が一番いい、コンサルに費用がかかりますから。でも、例えば飲食とか旅館やホテルとかでも立て直しのときにコンサルを使うことによって経営が物すごく変化して収入につながったという事例が本当にたくさんありますので、今後もコンサルの方のアドバイス等をぜひ皆さんで吸収して学んで、今後ぜひ生かしていただきたいと思います。

以上です。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第12号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

◎散会宣告

○委員長 辻 勲君 以上で本委員会に付託されました各議案の審査を全て終了しました。

これで第2予算審査特別委員会を散会します。

散会 午後 3時35分

委 員 長